

事業報告書

令和7年度

(第10期事業年度)

自 令和7年4月 1日

至 令和8年3月31日

地方独立行政法人静岡市立静岡病院

目 次

I	法人の現況、目的、業務内容等	1
	(1) 法人の現況	
	(2) 役員等の状況	
	(3) 職員の状況	
	(4) 法人の理念や運営上の方針	
	(5) 法人の目的	
	(6) 業務内容	
	(7) 法人の位置付け及び役割	
II	業務実績等の状況	5
	第1 中期計画及び事業年度の期間	
	第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	
	1 地域における役割・機能と担うべき医療	5
	(1) 静岡病院が担う役割・機能	
	(2) 静岡病院が担うべき医療（高度医療・専門医療等、救急医療、感染症医療、災害時医療）	
	2 患者の視点に立った信頼される医療の提供	8
	(1) 患者中心の医療の推進	
	(2) 医療安全対策	
	(3) 患者サービスの向上	
	3 医療従事者の確保と働き方改革	10
	(1) 医療従事者の確保	
	(2) 医療従事者の働きやすい環境づくり	
	4 地域との連携	12
	(1) 地域の医療機関との連携	
	(2) 市や関係機関等との連携	
	(3) 市民への情報提供	
	第3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
	1 効率的な業務運営等	15
	2 教育研修の充実	16
	3 職員の勤務意欲の向上	17
	4 事務部門の強化	18
	第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
	1 経営指標に係る数値目標の設定	19
	2 収入の確保及び費用の節減	19
	第5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置	
	1 法令等の遵守	20
	2 施設・医療機器等の更新	21
III	法人の内部統制の状況	22
IV	業務運営上の課題・リスク管理の状況	23
	(1) リスク管理の状況	
	(2) 業務運営上の課題	
V	予算と決算の対比	24
	(1) 予算	
	(2) 収支計画	
	(3) 資金計画	
VI	その他市の規則で定める業務運営に関する事項	26

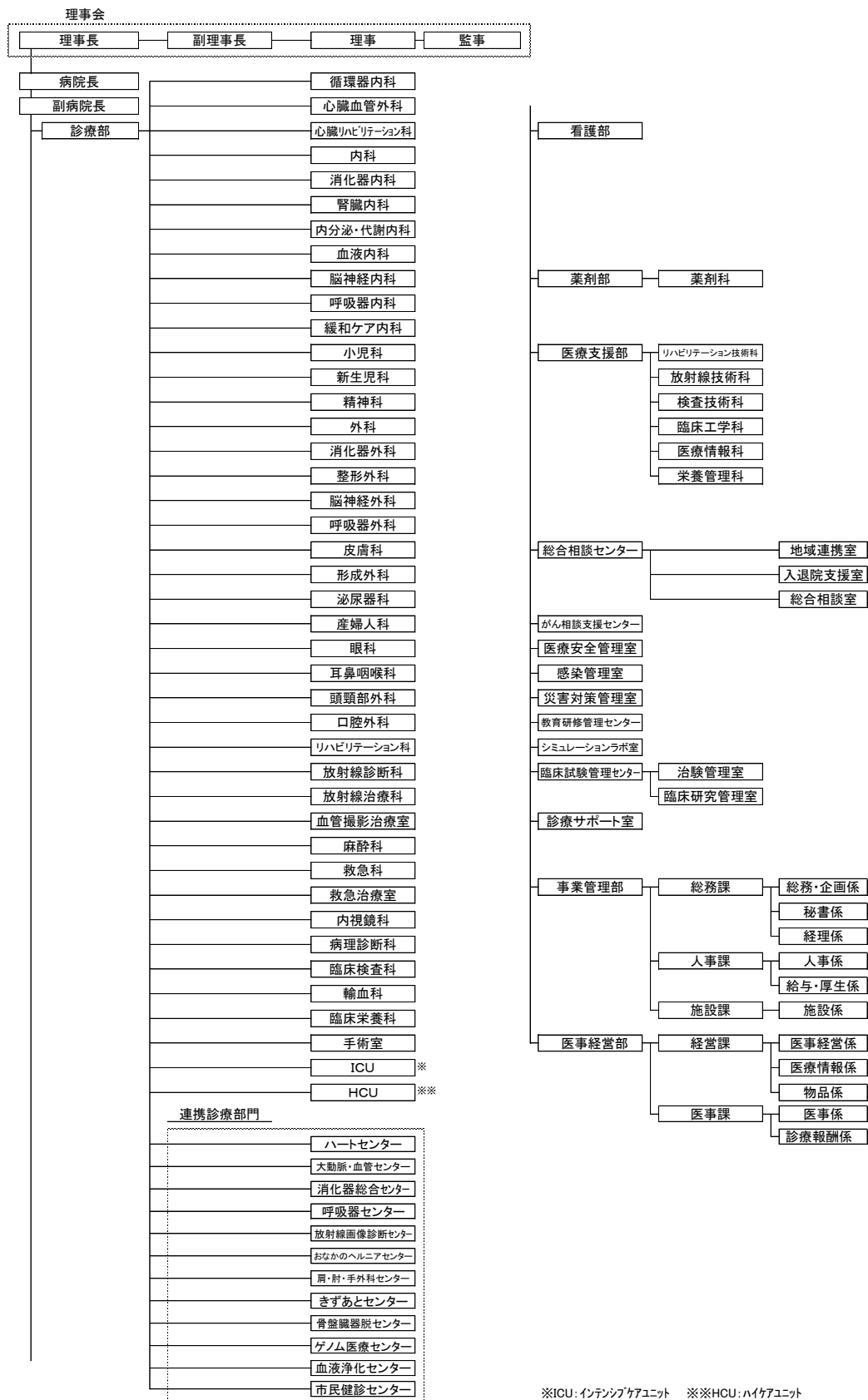
VII	財務諸表及び運営状況・・・・・・・・・・・・・・・・	27
-----	----------------------------	----

- (1) 決算概要
- (2) 主な診療実績
- (3) 経営指標
- (4) 貸借対照表
- (5) キャッシュ・フロー計算書
- (6) 純資産変動計算書
- (7) 行政コスト計算書

I 法人の現況、目的、業務内容等

(1) 法人の現況（令和7年4月1日現在）

法人名 地方独立行政法人静岡市立静岡病院
所在地 静岡市葵区追手町 10 番 93 号
設立年月日 平成 28 年 4 月 1 日
組織図 (令和8年1月1日)



※ICU:インテンシブケアユニット ※※HCU:ハイケアユニット

(2) 役員等の状況 (令和7年4月1日時点)

役 職	氏 名	任 期	備 考
理事長	小野寺 知哉	自 令和5年4月 1日 至 令和9年3月31日	常 勤
副理事長	前田 明則	自 令和5年4月 1日 至 令和9年3月31日	常 勤 病院長を兼務
副理事長	大長 義之	自 令和7年4月 1日 至 令和9年3月31日	常 勤
理 事	大畑 和弘	自 令和7年4月 1日 至 令和9年3月31日	常 勤
理 事	深澤 誠司	自 令和7年4月 1日 至 令和9年3月31日	常 勤 副病院長を兼務
理 事	松下 光恵	自 令和7年4月 1日 至 令和9年3月31日	非常勤
理 事	松本 志保子	自 令和7年4月 1日 至 令和9年3月31日	非常勤
理 事	中島 忠男	自 令和7年4月 1日 至 令和9年3月31日	非常勤
監 事	興津 哲雄	自 令和4年度財務諸表承認日の翌日 至 令和8年度財務諸表承認日	弁護士
監 事	山田 博久	自 令和4年度財務諸表承認日の翌日 至 令和8年度財務諸表承認日	公認会計士

(3) 職員の状況 (令和8年3月31日現在)

職員数 982名

(内訳) 医師 174名
看護師・助産師 551名
医療技術員 182名
事務職 75名 (うち派遣職員 15名)

(4) 法人の理念や運営上の方針

基本理念

開かれた病院として、市民に温かく、質の高い医療を提供し、福祉の増進を図ります。

基本方針

1. 患者さんを主体とし、患者さんにとって最善の全人的医療を実践します。
2. 静岡市の基幹病院として、高度専門医療を提供し、その向上を常に図ります。
3. 市民の安全を守るため、二次救急医療、救命救急医療、災害時医療を提供します。
4. 地域医療の充実のため、病診連携、病病連携、保健福祉機関との連携を図ります。
5. 職員は、研修、研究、教育を通じて医療水準の向上を図ります。

(5) 法人の目的 (地方独立行政法人静岡市立静岡病院定款 第1条)

地方独立行政法人静岡市立静岡病院は、地方独立行政法人法(平成15年法律第118号。以下「法」という。)に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究、医療に従事する者の育成等の業務を行うとともに、地域の医療機関との役割分担及び連携のもと、静岡市の医療施策として求められる救急医療、高度医療等を提供することにより、医療の水準の向上を図り、もって市民の健康の維持及び増進に寄与することを目的としています。

(6) 業務内容 (地方独立行政法人静岡市立静岡病院定款 第17条)

地方独立行政法人静岡市立静岡病院は、法人の目的を達成するために、次に掲げる業務を行います。

- (1) 医療を提供すること。
- (2) 医療に関する調査及び研究を行うこと。
- (3) 医療に従事する者に対する研修を行うこと。
- (4) 医療に関する地域への支援を行うこと。
- (5) 人間ドック、健康診断等の予防医療を提供すること。
- (6) 上記(1)から(5)に掲げる業務に附帯する業務を行うこと。

(7) 法人の位置付け及び役割

【法人の位置付け】(令和8年3月31日時点)

病 院 名	静岡市立静岡病院
主な役割	地域医療支援病院(平成18年)
及び機能	臨床研修指定病院 救急告示病院 第一種感染症指定医療機関(平成20年) 災害拠点病院(平成25年) 地域がん診療連携拠点病院(平成19年) エイズ中核拠点病院 地域肝疾患診療連携拠点病院(平成19年) 地域周産期母子医療センター 日本医療機能評価機構認定病院(平成20年) がんゲノム医療連携病院(令和7年)
診療科目	内科 腎臓内科 内分泌・代謝内科 血液内科 神経内科 呼吸器内科 消化器内科 循環器内科 緩和ケア内科 小児科 新生児科 精神科 外科 消化器外科 整形外科 形成外科 脳神経外科 呼吸器外科 心臓血管外科 皮膚科 泌尿器科 産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 頭頸部外科 リハビリテーション科 放射線治療科 放射線診断科 麻酔科 救急科 歯科口腔外科(口腔外科) 病理診断科
病 床 数	506床(感染症病床「一類2床、二類4床」を含む)
沿 革	明治2年 追手町四ツ足御門外に藩立駿府病院を開設 明治9年 公立静岡病院として屋形町で開院(県立) 明治15年 県立から郡立(有度・安倍郡)に移管 明治22年 静岡市制施行に伴い静岡市に移管 明治38年 市立静岡病院と改称 昭和20年 戦災により焼失 昭和21年 隣保館(巴町59番地)を改築、仮病院とする 昭和26年 追手町10番93号(現在地)に移転 昭和49年 本館(旧東館)竣工 昭和60年 病院建設工事施工(4か年継続事業) 昭和62年 第1期西館高層棟完成 平成元年 第2期低層棟、立体駐車場、東館改修工事完成 平成2年 オープンシステム(開放型病院)実施 平成3年 心電図伝送システム導入 平成7年 オーダリングシステム稼働 平成15年 新静岡市にて開設 平成15年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定審査に合格(Ver.4) 平成15年 地域医療支援室を設置 平成18年 地域医療支援病院の承認を取得 平成19年 地域がん診療連携拠点病院の指定 平成19年 肝疾患診療連携拠点病院の指定 平成20年 東館竣工 平成20年 電子カルテシステム稼働 平成20年 日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(Ver.5)

平成 21 年	D P C 対象病院
平成 22 年	病院専用駐車場竣工
平成 25 年	ハイブリット手術室稼働
平成 25 年	内視鏡下手術用ロボット（ダ・ヴィンチ）稼働
平成 25 年	日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(3rdG : Ver. 1. 0)
平成 25 年	災害拠点病院の指定
平成 26 年	経カテーテル大動脈弁置換術開始
平成 28 年	地方独立行政法人としてスタート
平成 29 年	P E T / C T 稼働
平成 30 年	日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(3rdG : Ver. 2. 0)
令和元年	創立 150 周年記念式典及び祝賀会举行
令和元年	パルス式キセノン紫外線照射ロボット（ライトストライク）導入
令和 2 年	新型コロナウイルス感染症重点医療機関の指定
令和 2 年	特定行為研修指定研修機関の指定
令和 3 年	総合医療情報システム（電子カルテ）更新
令和 4 年	大動脈・血管センター開設
令和 5 年	肩・肘・手外科センター、おなかのヘルニアセンター開設
令和 5 年	日本医療機能評価機構の病院機能評価認定更新(3rdG : Ver. 3. 0)
令和 6 年	きずあとセンター、ゲノム医療センター開設
令和 6 年	J A 静岡厚生連静岡厚生病院と医療機能連携協定締結
令和 7 年	がんゲノム医療連携病院の指定
令和 7 年	J A 静岡厚生連静岡厚生病院、静岡赤十字病院と 3 病院医療機能連携協定締結
令和 7 年	骨盤臓器脱センター、呼吸器センター開設

【法人の役割】

第 3 期中期目標期間における法人が果たすべき役割

○市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

- ①地域における役割・機能と担うべき医療
 - ・ 静岡病院が担う役割・機能
 - ・ 静岡病院が担うべき医療
 - 高度医療・専門医療、救急医療、感染症医療、災害時医療等
- ②患者の視点に立った信頼される医療の提供
 - ・ 患者中心の医療の推進
 - ・ 医療安全対策
 - ・ 患者サービスの向上
- ③医療従事者の確保と働き方改革
 - ・ 医療従事者の確保
 - ・ 医療従事者の働きやすい環境づくり
- ④地域との連携
 - ・ 地域の医療機関との連携
 - ・ 市や関係機関等との連携
 - ・ 市民への情報提供

○業務運営の改善及び効率化

- ①効率的な業務運営等
- ②教育研修の充実
- ③職員の勤務意欲の向上
- ④事務部門の強化

○財政内容の改善

- ①経営指標に係る数値目標の設定
- ②収入の確保及び費用の節減

○その他業務運営

- ①法令等の遵守
- ②施設・医療機器等の更新

II 業務実績等の状況

第1 中期計画及び事業年度の期間

第3期中期計画の期間 令和5年4月1日から令和9年3月31日までの4年間とする。

第3期事業年度の期間 令和7年4月1日から令和8年3月31日までの1年間とする。

第2 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 地域における役割・機能と担うべき医療

(1) 静岡病院が担う役割・機能

○静岡病院が果たすべき役割

- ・静岡県地域医療構想を踏まえ、紹介率及び逆紹介率の向上に取り組むとともに、医療機関や消防機関との連携強化及び急性期医療の維持・充実に努め、地域における医療機能の分担と効率的運用の推進を図った。
- ・多職種が連携した入退院支援により、入院前から退院後を見据えた切れ目のない支援を推進した。入退院支援室・地域連携室を中心に医療機関や介護・福祉施設と連携し、適切な入院治療と円滑な退院調整に取り組むことで、早期退院の実現と在宅復帰の促進に努め、DPC入院期間Ⅱ以内退院割合は72.6%、入退院支援加算算定件数は7,562件で推移した。
- ・がん、脳卒中、虚血性心疾患等の地域連携パスを活用し、急性期から回復期、在宅療養までの診療計画を関係機関間で共有するとともに、退院調整を推進した。円滑な退院支援及び在宅復帰の促進に努め、地域連携パスの新規利用件数は394件となった。
- ・医療機能連携協定による静岡厚生病院との定期的な連携ミーティングを行い、情報共有や患者の相互受け入れの迅速化等、積極的な関与を継続し、患者視点に立ったサービスの提供に取り組んだ。

目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和7年度 目標	令和7年度 実績
DPC入院期間Ⅱ以内退院割合	66.1%	69.8%	70.5%	70.0%	72.6%
入退院支援加算算定件数	6,665件	7,595件	7,502件	5,500件	7,562件
地域連携パス（疾患別病診連携パス） 新規利用件数	362件	440件	440件	450件	394件

参考値

項目		令和４年度実績	令和５年度実績	令和６年度実績	令和７年度実績
重症度、医療・看護必要度Ⅱ		36.１％	36.6％	－	－
重症度、医療・看護必要度Ⅱ①		令和６年度診療報酬改定により 基準が２段階に変更		26.6％	24.6％
重症度、医療・看護必要度Ⅱ②				39.0％	35.5％
在宅復帰率		97.0％	97.4％	97.1％	96.9％
医療機能別病床数	高度急性期	355 床	306 床	349 床	283 床
	急性期	145 床	194 床	151 床	217 床

※医療機能別病床数 令和7年度算出方式

静岡病院方式：従来の新静岡方式を下記の内容へ変更した当院基準

高度急性期 ・ 特定入院料等区分（救命救急、ICU、HCU、NICU等）

・ 重症度、医療・看護必要度Ⅱ基準32%（基準値は総合入院体制加算1を参考）以上かつ平均在
棟日数11日未満

急性期 ・ 上記を満たさない病棟

(2) 静岡病院が担うべき医療（高度医療・専門医療等、救急医療、感染症医療、災害時医療）

○高度医療・専門医療等

- ・ハートセンターでは、循環器内科と心臓血管外科が連携し、内科的・外科的の両面から治療方針を検討し、大動脈弁狭窄症や虚血性心疾患等の心疾患に対し、TAVIをはじめとする低侵襲治療を積極的に実施した。また、大動脈・血管センターでは、カテーテル治療と外科手術を組み合わせたハイブリッド治療を実施し、高度かつ専門的な医療の提供に努めた。
- ・高齢化に伴い骨盤臓器脱の患者数が増加するなか、地域医療へのさらなる貢献を目的として、産婦人科・消化器外科・泌尿器科が連携した横断的な診療体制を構築し、対象疾患のある患者の診療を積極的に行うため、新たに「骨盤臓器脱センター」を設置した。
- ・肺悪性腫瘍や高齢化により増加が見込まれる呼吸器疾患の受入れなど、呼吸器内科と呼吸器外科が連携

した「呼吸器センター」を新たに設置し、複雑化する医療ニーズへ組織的に対応する治療体制を整備した。

- ・がんゲノム医療連携病院として、臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラー等を中心に遺伝カウンセリングを実施した。がん遺伝子パネル検査を実施し、その結果について多職種によるエキスパートパネルにおいて医学的検討を行った。同意を得た患者の検査・診療データを C-CAT（がんゲノム情報管理センター）へ登録し、国のがんゲノム医療の推進に寄与した。

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
カテーテルアブレーション件数	368 件	411 件	379 件	478 件
冠動脈インターベンション件数	388 件	477 件	410 件	418 件
開心術件数	212 件	203 件	225 件	245 件
TAVI	103 件	101 件	125 件	121 件
ステントグラフト治療件数	107 件	130 件	113 件	122 件
ロボット支援手術件数	131 件	152 件	203 件	277 件
内視鏡手術件数	1,109 件	1,187 件	1,083 件	1,202 件
内視鏡検査数	4,805 件	4,881 件	4,463 件	5,518 件
PET/CT稼働件数	767 件	793 件	716 件	735 件
悪性腫瘍手術件数	771 件	742 件	831 件	836 件
がん化学療法延べ患者数	3,827 人	3,921 人	3,814 人	4,071 人

○救急医療

- ・「断らない救急医療」を掲げ、病院をあげて静岡市内の救急搬送を積極的に受け入れるとともに、他の医療圏からの広域搬送にも消防本部等と連携し対応した。救急搬送応需率及び搬送患者数は地域内公的5医療機関で最も高く、やむを得ず不応需となった事例は救急業務委員会ですべて毎月詳細に検証し適正な救急患者受け入れの確保に努め、地域に信頼される救急医療の提供に寄与した。

静岡地域内公的5医療機関・・・静岡市立静岡病院、静岡県立総合病院、静岡済生会総合病院、静岡赤十字病院、静岡厚生病院

- ・緊急性の高い患者への医療提供を優先するため、インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の検査のみを目的とした受診を制限するなど、限られた医療資源の効率的な運用により、救急医療体制の維持と安定的な運営に努めた。
- ・円滑な救急医療を推進するため、救急隊と定期的に意見交換会を行い、双方の要望を共有して業務改善に取り組んだ。救急隊の疑問相談に病院側が回答できる交換ノートを設置し、日ごろから情報を共有する仕組みを構築した。
- ・看護師の救急車同乗実習を再開し、実務上の相互理解を図った。また、医師指示要請専用ホットラインを新設し、特定行為の指示と搬送受け入れの電話を分けることで、救急業務の効率化と医療の質の向上を図った。
- ・臨床研修医の救急現場における医療技術の向上を図るため、外部講師による救急講演会や院内講師による救急ミニレクチャー等の支援プログラムを実施した。

＜救急講演会（ハイブリッド開催）＞

第1回 令和7年7月17日（木）（会場：静岡病院西館12階講堂 受講者数40人（Web参加含む））

テーマ：「高齢者救急 訴えがはっきりしないときにどのように動くべきか」

第2回 令和8年2月5日（木）（会場：静岡病院西館12階講堂 受講者数32人（Web参加含む））

テーマ：「意識障害 実践的なアプローチ」

（第1回、第2回共）講師：国保旭中央病院 救急救命科 医長 坂本 壮 氏

目標値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
救急搬送応需率	95.9%	97.6%	95.5%	95.0%	97.7%

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
救急患者数	12,958 人	13,305 人	12,893 人	12,091 人
救急車搬送患者数	6,989 人	7,548 人	7,612 人	7,176 人
地域救急貢献率	20.4%	20.6%	19.9%	19.4%

○感染症医療

- ・院内感染対策委員会を毎月開催し、院内感染の現状確認や関連事案の審議を行った。また、職員の基礎知識向上を目的とした研修を実施し、全職員を対象とした院内感染対策講演会の受講率は 100%を達成した。

<院内感染対策講演会>

第1回 令和7年8月7日(木)(会場：静岡病院西館12階講堂他 受講者数 1,262人 受講率 100%)

第1部「長寿の鍵は腸内細菌にあり～抗菌薬を賢く使い、食生活で育む～」

第2部「事例検証！針刺し事故から身を守るための実践的対策」

第2回 令和7年12月22日(月)(会場：静岡病院西館12階講堂他 受講者数 1,227人 受講率100%)

第1部「SSI予防と薬剤科の取組」

第2部「災害医療の視点から見た新型コロナウイルス感染症

～フロントラインから始まったDMAT活動を振り返る～

- ・国立健康危機管理研究機構(JIHS)が主催する感染症臨床研究ネットワーク事業(iCROWN)へ新たに参画した。感染症指定医療機関職員を対象とした研修会に参加するとともに、検体採取・提出に関する患者同意の取得や署名確認の運用を整備し、国のサーベイランスや研究に寄与した。
- ・当院の感染対策について、三重県議会医療保健子ども福祉病院常任委員会からの視察を受け入れた。取り組み内容や感染症病棟の視察等を通じて、感染予防の有効性や現場における具体的な対策手法への理解促進に貢献した。

令和7年9月10日(水)(会場：静岡病院東館11階多目的室、東館12階感染症病棟)

当院における感染対策の取組説明、質疑応答、感染症病棟視察

- ・感染対策の更なる向上と地域の感染対策を推進するため、近隣の関係機関との合同カンファレンスや相互評価等を実施した。

- ・静岡市感染症等の合同カンファレンス

(年4回開催 市内14病院、静岡医師会、清水医師会、静岡市保健所)

- ・感染対策向上加算に係る相互評価 (11月25日 静岡病院、静岡済生会総合病院)

- ・外来感染対策向上加算届出医療機関訪問カンファレンス

(8月20日、9月29日、2月2日 市内4病院)

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
感染症対応用確保病床数(最大確保数)	28床	23床	6床	6床
紫外線照射ロボット稼働実績	2,050回	1,072回	41回	122回
手指衛生用消毒液購入量	2,830ℓ	2,215ℓ	2,170ℓ	1,815ℓ
入院患者1人1日あたり病棟用購入量	17.4ml	13.8ml	13.1ml	12.3ml

○災害時医療

- ・防火・防災体制の強化を目的に各種訓練を実施した。4月に新規採用者を対象とした設備研修(参加人数85人)、9月に災害対策本部の立上げを含む情報伝達訓練(参加人数57人)を行い、初動対応力の向上を図った。
- ・11月にトリアージ訓練(参加人数120人)、2月に病棟での夜間火災を想定した消防防災訓練(参加人数46人)を実施したほか、年間を通じて部門別出前講座(参加人数延べ84人)や、緊急連絡メールによる情報伝達訓練(年4回、メール登録率100.0%)を実施し、防災意識の向上に努めた。
- ・当院と静岡厚生病院、静岡赤十字病院による令和7年度災害時医療合同訓練(総参加人数262人)を、静岡市地域防災訓練と同日の令和7年12月7日に実施した。静岡赤十字病院を訓練会場とし各病院の医療救護班によるトリアージ訓練や静岡市医療救護本部との情報伝達訓練等を行った。
- ・災害時における迅速な情報共有体制の強化を目的として、低軌道衛星を活用した衛星ブロードバンド通信サービスを新たに導入し、通信環境が脆弱となった場合でも高速かつ低遅延のインターネット接続を可能とする回線を確保した。また、非常食等の備蓄品の入替えを実施し、防災備蓄の適正な管理を行った。
- ・災害時医療の啓発とDMAT車両の更新を目的に、9月19日～11月28日までの71日間、当院として初めてクラウドファンディングを実施。DMATの活動意義や当院の役割に対する市民の理解が深まり、多くの支援・協力により、DMAT車両を更新した。
- ・災害時医療の体制強化を目的に事業継続計画(BCP)を改訂した。地域の特性を踏まえた被害想定を

再検証し、初動対応、安否確認フロー、重要業務の優先順位等の見直しを行った。南海トラフ地震臨時情報発表時の参集基準や情報伝達体制を明確化し、発表後も途切れない医療提供体制を整備した。

- ・DMA T 隊の技能維持のため、中部ブロックDMA T 実働訓練（福井県）や大規模地震時医療活動政府訓練（宮城県大崎市）、静岡県総合防災訓練（静岡県藤枝市）等へ参加した。また、隊員養成研修への参加によりDMA T 隊員を前年度の21人体制から25人体制（医師5 看護師6 薬剤師3 臨床工学技士1 診療放射線技師3 臨床検査技師1 管理栄養士1 事務5）に増員した。

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
防災訓練開催回数	4回	4回	4回	4回
DMA T 隊チーム数	2チーム	2チーム	2チーム	3チーム

2 患者の視点に立った信頼される医療の提供

（1）患者中心の医療の推進

○患者中心の医療の推進

- ・患者相談窓口を総合相談センターに一本化し、社会福祉士、看護師、医療メディエーター等の医療スタッフが患者と病院の架け橋となり、医療や看護、介護、医療費、社会福祉制度等の相談に対応した。必要に応じ院外の専門職種や諸機関とも連携し対応に努めた。
- ・産婦人科・消化器外科・泌尿器科が一体となって横断的に診療する「骨盤臓器脱センター」や、肺悪性腫瘍や高齢化により増加が見込まれる呼吸器疾患の受入れなど呼吸器内科と呼吸器外科が連携した「呼吸器センター」を新たに設置した。複雑化する医療ニーズに診療科の垣根を越えた連携で組織的に対応する治療体制を整備することにより、将来を見据えた医療体制の強化と患者中心の医療に取り組んだ。
- ・看護方式を固定チームナーシングからセル看護提供方式®に移行し、常に患者の傍で看護を行うことで安心感の向上と迅速な看護ケアの提供に努めた。
- ・出産（退院）直後から母親の心身の回復や赤ちゃんがいる生活をサポートする「静岡市産後ケア事業」を令和7年8月より開始した。母子を医療の対象だけでなく生活者として捉え、最も支援が必要な時期に行政と連携して寄り添うことで、地域レベルで安心・安全な子育てができる環境づくりに取り組んだ。
- ・医療機能連携を活用し、患者の意向や状態に配慮した医療の提供に取り組んだ。静岡厚生病院との定期的な病院長会議及び実務担当者会議の開催により、転院時における治療方針・療養方針等について軽微な事項も含め情報共有を図り、継続的かつ円滑な医療提供体制の確保に努めた。
- ・総合相談件数は7,929件で推移した。主な相談内容としては、在宅診療や転院先の調整に加え、脳卒中やがんなどの治療と仕事の両立に関するものが増加した。看護師と社会福祉士が連携して対応するとともに、総合相談センター内に設置されているハローワーク静岡の出張相談窓口とも連携し、就労支援に取り組んだ。
- ・患者の意思決定支援の重要性に関する職員向け教育を実施した。患者の意思確認や意向に沿った治療選択の支援について学び、意見が反映される仕組みづくりに努め、安全かつ適切な医療の提供に取り組んだ。

<院内医療倫理講演会>

令和8年3月16日（月）（会場：静岡病院西館12階講堂等 受講者数 292人）

テーマ「高齢の末期腎不全患者のための臨床倫理

：保存的腎臓療法（CKM）と維持透析の終了も含めて」

講師：東京大学 大学院 人文社会系研究科

死生学・応用倫理センター上廣講座 特任教授 会田薫子 氏

<パートナーシップ講演会>

令和8年2月17日（火）（会場：静岡病院西館12階講堂等 受講者数 294人）

テーマ「患者の意思決定のポイント」 講師：静岡医療コミュニケーション研究会

参考値

項目		令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
総合相談件数		5,285 件	5,714 件	6,266 件	7,929 件
(内訳)	退院調整（在宅）	49.0%	45.3%	43.8%	40.3%
	退院調整（転院）	30.3%	27.4%	25.3%	25.9%
	経済的な相談	5.2%	3.9%	4.8%	4.5%
	受診に関する相談	1.9%	2.1%	1.2%	1.8%
	その他	13.6%	21.3%	24.9%	27.5%

(2) 医療安全対策

○医療安全対策強化に向けた取り組み

- ・副病院長を医療安全管理室長として専任配置し、看護師の専従医療安全管理者、専任の医薬品安全管理者、医療機器安全管理者、放射線安全管理者を配置し、組織横断的に医療安全対策に取り組んだ。ミーティングを週1回開催し、医療安全に関する情報を共有した。
- ・転倒・転落、注射、チューブ管理等9つの医療安全作業部会を組織し、インシデント事例の収集や分析、改善策の検討とその実施、マニュアルの見直し等を随時行うとともに、院内報や文書の配布、研修会等を通じて職員へ周知した。あわせて、インシデントレポートの目的や必要性を継続的に説明することで職員の安全意識向上を図り、医療事故防止に努めたことにより、目標値を超えるインシデントレポート件数（達成率140.5%）に繋がった。
- ・リストバンドの素材を見直し、肌の弱い患者や小児への影響が少ないものに変更した。さらに、テープ止めからホック式に変更したことで、外れにくさの向上にも繋がった。
- ・中心静脈カテーテルに関するガイドラインを見直すとともに講習会の回数を増やし、より高度な手技の習得を促進することで、安全にカテーテルを挿入できる知識と技術の向上に努めた。
- ・医療安全対策の推進と更なる向上を図るため、当院と静岡市立清水病院、清水駿府病院の3病院で連携し、院内ラウンドによる医療安全相互チェックを実施した。

令和7年8月8日（金） チェック対象病院：静岡市立静岡病院

令和7年12月2日（水） チェック対象病院：静岡市立清水病院

令和8年3月13日（金） チェック対象病院：清水駿府病院

- ・全職員を対象とした医療安全講演会の他、末梢静脈穿刺の安全対策講習会、転倒転落予防研修会、深部静脈血栓症予防講習会、インスリン勉強会、血栓塞栓症予防講習会、診療用放射線の安全利用のための研修会等を実施した。

＜院内医療安全講演会＞

第1回 令和7年6月13日（金）（会場：静岡病院西館12階講堂等 受講者数1,266人 受講率100%）

テーマ：「パワハラにならない叱り方・リスペクトコミュニケーションの極意」

講師：有限会社ハートプロ 代表 河村 晴美 氏

第2回 令和8年2月25日（水）（会場：静岡病院西館12階講堂等 受講者数1,179人 受講率100%）

テーマ：「もしも訴えられたら」

講師：リョマホ法律事務所 弁護士 岡田 隆志 氏

- ・診療プロセスの標準化を目指し、クリニカルパスの日数をDPC入院期間Ⅱ以内となるよう多職種が連携して作成した。定期的な見直しと逸脱状況の分析に取組み、医療の質の改善に努めた。

目標値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
インシデント レポート件数（※）	2,702 件	2,865 件	3,001 件	2,200 件	3,091 件

※ 続発症含む

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
入院患者の転倒・転落発生率	0.28%	0.28%	0.28%	0.30%
医療安全作業部会開催回数	43 回	52 回	43 回	46 回
クリニカルパス数	166	207	246	267

(3) 患者サービスの向上

○患者サービス向上に向けた取り組み

- ・提案箱を院内9か所に設置し、回収した意見・要望を内容に応じて担当部署へ振り分け、対応策の検討を行った。主に、待ち時間や接遇に関する苦情、施設面に関する要望、患者対応への感謝などが寄せられた。これらの内容は、運営会議および各部門連絡会議を通じて職員に周知するとともに、患者・家族へは院内掲示によりフィードバックした。
- ・患者満足度調査を11月に実施した。（入院11月11日～17日、外来11月4日～17日）入院・外来あわせて1,506枚配布し、回収は1,151枚（回収率76.4%）であった。男女比では男性51.2%、女性48.9%、年代別では60歳代17.6%、70歳以上33.7%、80歳以上21.0%と約7割が60歳以上であった。
- ・目標値である入院患者満足度は92.4%（達成率102.7%）、外来患者満足度は88.9%（達成率104.6%）と目標値を上回る結果となった。

・患者満足度向上への主な取組み

(カード式ランドリーの導入)

患者満足度調査で要望が寄せられていたコインランドリーについて、新たに硬貨式から床頭台と共通のカード式へ移行し、患者の利便性向上と療養環境の改善を図った。また、職員の現金管理が削減され、業務負担（集金・両替等）も改善された。

(付き添い食の提供)

小児入院患者の付き添い家族が安心して療養生活を支えられるよう、付き添い食の提供を開始し、入院中の負担軽減と患者・家族の満足度向上を図った。

(東館特別室のリニューアル)

東館特別室をリニューアルし、ソファベッドや応接セット等を更新した。患者が快適に過ごせる環境の整備に取り組んだ。

(エレベーター待ち時間の改善)

東館エレベーターについて、1階に利用者が集中する午前中を中心に待ち時間が長時間化していた状況を踏まえ、運行プログラムの見直しを実施し効率的な運行による待ち時間の短縮に取り組んだ。

(公衆無線 LAN のセキュリティ強化)

公衆無線 LAN（静病 Free Wi-Fi）の認証方式を見直し、安全性と利便性の両立を図ることで、患者が安心して利用できる通信環境を整備した。

(外来番号表示板の調整)

視認しにくかった一部の外来番号表示板を移設するとともに、表示内容を見直した。これにより、視認性を向上させ、案内機能の改善を図った。

(接遇の向上)

一般的なビジネスマナーではなく、患者サービス向上と接遇能力の向上を目的とした動画視聴形式によるオンラインセミナーを開催した。

<接遇講演会>

令和7年11月4日（火）他（会場：静岡病院院内会議室等 受講者数1,167人 受講率90.7%）

テーマ：「あなたで良かった」と言われる心に響く瞬間の創り方

（全国自治体病院協議会主催オンラインセミナー（動画視聴形式））

講師：自律進化組織研究所 三好章樹氏

目標値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
入院患者満足度（※）	89.8%	91.6%	91.6%	90.0%	92.4%
外来患者満足度（※）	83.7%	89.6%	86.5%	85.0%	88.9%

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
入院患者満足度（※）（接遇項目のみ）	92.9%	92.9%	92.5%	91.6%
外来患者満足度（※）（接遇項目のみ）	87.3%	87.5%	88.1%	88.8%
提案箱投書件数	94件	106件	97件	97件
（内訳）				
苦情	45.7%	54.7%	62.9%	71.2%
提案、要望	29.8%	18.9%	17.5%	14.4%
感謝、お褒め	24.5%	24.5%	19.6%	13.4%
その他	0.0%	1.9%	0.0%	1.0%

※「満足」以上とした割合

3 医療従事者の確保と働き方改革

(1) 医療従事者の確保

○医療従事者確保に向けた取り組み

- ・医療法や施設基準に基づき必要な人員を確保するとともに、各部門からの増員要求を査定したうえで職種・部門ごとの必要性に応じた採用を進めた。また、欠員状況に応じて中途採用も実施した。
- ・看護師等修学資金貸与規程について、面接による新規貸与者の決定や国家試験不合格者に対する返還義務の明確化等の見直しを行い、人材投資としての制度価値の向上と質の高い人材の確保に取り組んだ。
- ・静岡市での勤務を希望する市内出身の医師・医学生及びその親族等を対象とした、市主催の説明会「静岡市ドクター・バック合同説明会」に当院の市内出身医師と参加しプレゼンテーションや個別相談等を行った。

- ・医学生へのリクルート活動では、従来の東京・大阪・仙台・博多に加え、新たに金沢にブース出展し、当院の周知と知名度の向上に努め、全国から多くの医学生が受験する結果となった。
- ・当院の強みでもある職員間の円滑なコミュニケーションによる「温かな雰囲気」を医学生に直接感じてもらえるよう丁寧な対応に努め、医学生の病院見学は前年度と同じ 258 人となった。
- ・看護師の確保に向け、県内に限らず県外の大学や看護専門学校を訪問し、就職説明や当院の魅力を伝えた。また、学生を対象としたリクルートイベントやハローワーク主催の看護職就職説明会にも参加するなど、人材確保に向けた取組を推進した。看護実習を積極的に受け入れることで、多くの学生に当院の魅力を知ってもらうよう努めた。
- ・ホームページに掲載しているリクルート動画「先輩の声」を更新し、新人看護師インタビューや新人看護職員研修の内容を映像化することで、看護職員の手厚い育成体制について周知を図った。
- ・看護師採用試験については、受験機会の拡充を目的として他の病院に先駆け 4 月から複数回実施するとともに、面接試験のみとすることで受験しやすい環境に配慮し、看護師数の確保に努めた。

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
医師・歯科医師数	167 人	169 人	177 人	174 人
（うち、専攻医数）	(35 人)	(29 人)	(31 人)	(28 人)
（うち、研修医数）	(26 人)	(27 人)	(27 人)	(27 人)
助産師・看護師数	528 人	526 人	545 人	551 人
医療技術員数（※）	170 人	174 人	177 人	182 人
各種専門資格を有する職員数	126 人	138 人	138 人	152 人
医師・歯科医師	92 人	102 人	102 人	107 人
助産師・看護師	18 人	19 人	19 人	21 人
医療技術員数（※）	16 人	17 人	17 人	24 人

※ 医療技術員…薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学技士、歯科衛生士

（２）医療従事者の働きやすい環境づくり

○働きやすい環境の整備

- ・目標値である有給休暇の年間取得日数（医療従事者）は 14.2 日（達成率 109.2%）と目標値を上回った。医師・看護師・医療技術員のすべてで前年度実績を上回った。また、医師の平均時間外勤務時間数は 47.1 時間／月（達成率 91.3%）と前年度と同水準で推移した。
- ・医師の働き方改革施行 2 年目に当たり、時間外勤務の縮減に向けて勤務間インターバルの確保や代償休息の取得、面接指導等を推進するとともに、特例水準の対象となる診療科の医師を中心に制度への理解の浸透を図った。
- ・医師の時間外勤務縮減に向け、各診療科の実情に合わせて複数担当制やチーム制の導入等特定の医師に負担が偏らない体制整備に取り組んだ。また、毎月、長時間勤務者を把握し、診療部会議において幹部医師への報告を行うとともに、本人への指導等を行い、年 960 時間を超える医師は 4 人（前年度実績 8 人）に減少した。
- ・医師の働きやすい環境整備の一環として、当直明けの勤務負担軽減や複数担当制の導入、病状説明の勤務時間内実施、休日夜間における当直医対応等の勤務環境改善に関する取組について、病院ホームページ等を通じ患者へ周知した。
- ・東館 11 階の旧レストラン内厨房を改修し、職員休憩室「スタッフコモンズ」として整備した。スペースの有効活用を図り、多職種間の交流やグループ活動、自習等に資する環境を整備することで、職員の働きやすい職場環境の向上に努めた。
- ・職員の働きやすい環境づくりを目的に、多職種で構成する衛生委員会による院内巡視を実施した。年間を通じて院内の全部署を巡視し、現場ヒアリングにより職場環境や施設・設備に関する改善要望等を把握し、必要な改善策の検討及び実施に取り組んだ。
- ・職員の健康及び安全の確保を目的として、ストレスチェックを実施した。結果に基づき、必要に応じて産業医による面談を行うとともに、各所属長を対象に当該ストレスチェックの集団分析結果に関する報告会を開催し、職場環境の改善に向けた周知を図った。
- ・職員が安心して安全かつ質の高い医療を提供できる環境を確保するため、患者及びその家族等による暴言、暴力、威嚇、過度な要求等、いわゆるペイシエントハラスメントに対する基本方針を策定した。併せて、当該行為に対し組織として適切かつ統一的に毅然と対応する体制を整備し、継続的な取組を推進

した。

(定義)

ペイシェントハラスメントとは、患者やその家族またはそれらの関係者等からのクレーム・言動のうち、当該クレーム・言動の要求の内容の妥当性に照らして、当該要求を実現するための手段・態様が社会通念上不相当なものであって、当該手段・態様により職員の就業環境が害されるものをいう。

(対応)

ペイシェントハラスメントに該当する行為が認められた場合は、以下のとおり対応する。

- 1 一人に対応せずに必ず複数人で毅然と対応する。
- 2 院内で情報共有するため、必ず記録を作成し、総務課に報告する。
- 3 暴力行為や脅迫、器物破損など、悪質な行為の場合は、警察に通報するとともに必要に応じて診療の拒否、退去要求、出入り禁止等を含む法的な対応措置を講ずる。

<院内暴力対策研修会>

令和7年7月18日(金)ほか(会場：静岡病院院内会議室等 受講者数579人)

- ・病院における防犯対策について
- ・院内の緊急通報体制について

講師：公益財団法人 日本防災通信協会静岡県支部 佐野信浩氏

令和8年1月6日(火)ほか(全国自治体病院協議会主催オンラインセミナー 受講者数805人)

- ・医療現場におけるペイシェントハラスメント対策

講師：井上法律事務所 弁護士 井上清成氏

- ・令和7年度の看護師特定行為研修修了者は5人であった。令和2年度の開講以降、修了者数は27人となり、医療行為におけるタスクシフトの推進に努めた。
- ・看護の質向上のため実践(特定行為関連業務)として、治療方針等の意思決定支援や個別カンファレンスにおいて、特定行為看護師がその知識を活かし患者サポートに幅広く貢献した。

目標値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
有給休暇の年間取得日数 (医療従事者)	12.6日	12.3日	13.7日	13.0日	14.2日
医師の平均時間外 勤務時間数	48.5時間/月	48.6時間/月	47.2時間/月	43.0時間/月	47.1時間/月

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
有給休暇の年間取得日数(医療従事者)				
(内訳)				
医師・歯科医師	9.7日	12.1日	11.8日	12.1日
助産師・看護師	13.8日	11.8日	14.4日	14.9日
医療技術員(※)	11.9日	13.8日	13.6日	14.2日
時間外勤務 年960時間超えの医師数	14人	12人	8人	4人
看護師特定行為研修修了者数	2人	8人	3人	5人
うち、当院職員修了者数	1人	6人	3人	4人

※ 医療技術員…薬剤師、診療放射線技師、臨床検査技師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、臨床工学技士、歯科衛生士

4 地域との連携

(1) 地域の医療機関との連携

○地域の医療機関との連携推進

- ・目標値である紹介率(達成率 102.0%)、逆紹介率(達成率 115.9%)はいずれも目標を達成した。新規の受診はかかりつけ医からの紹介がほとんどであり、症状が安定した際にはかかりつけ医へ逆紹介し、連携実績を地域連携室で一元的に把握することで速やかな連携に繋がった。
- ・地域連携室に専従担当者を配置し連携実績の統計を作成する他、DPC公開データの利用・分析により地域の医療状況を把握すると共に、連携先への医師同行訪問や協議・情報交換の場で直接意見や要望を収集し、円滑な連携を推進した。
- ・前年度に静岡厚生病院と締結した医療機能連携協定をベースに、新たに当院と静岡厚生病院、静岡赤十字病院による3病院医療機能連携協定として令和7年4月1日に締結。定期的な病院長会議や合同による市民公開講座・災害時医療訓練の開催など連携の強化に取り組んだ。

令和7年7月14日（月） 令和7年度 第1回 3病院医療機能連携会議
（会場：静岡市立静岡病院 西館第1会議室）

令和7年9月26日（金） 3病院合同市民公開講座（会場：札の辻クロスホール6階）

＜テーマ＞「おまち」から発信！静岡3病院が語る健康と医療

令和7年12月7日（日） 災害時医療合同訓練（会場：静岡赤十字病院 1号館1階等）

＜参加者＞静岡赤十字病院・静岡厚生病院・市立静岡病院・静岡市保健衛生医療課

令和8年2月16日（月） 令和7年度 第2回 3病院医療機能連携会議

（会場：静岡市立静岡病院 東館11階多目的室）

- ・病床や医療機器の共同利用、イージーイーツーネット、ふじのくにバーチャルメガホスピタル（通称：ふじのくにねっと）等、診療情報の施設間共有システムや連携安心カード、複数の地域医療連携パスの活用により、他施設・機関と様々な連携を行った。
- ・静岡市立静岡病院・静岡県立総合病院・静岡赤十字病院・静岡済生会総合病院による静岡市病診連携室会議（Web 会議）を開催し、各病院の課題や疑問点等の情報交換により知識や経験の共有、コミュニケーションの活性化、業務効率の向上を図った。
- ・静岡市静岡医師会及び清水医師会の会員病院等との交流や開業医への訪問活動を継続的に実施し、地域における「顔の見える病診連携」の推進に努めた。また、歯科病診連携総会を初開催し、医科・歯科それぞれの連携強化に努めた。総会では、がんゲノム医療や口腔がん治療に関する当院の取組を紹介したほか、各センター（連携診療部門）の診療体制等について意見交換を行い、地域の医療機関との連携の充実を図った。

＜病診連携協議会＞

令和7年6月3日（火）（会場：静岡市立静岡病院12階講堂）

静岡市静岡医師会役員・静岡市清水医師会役員・静岡市立静岡病院幹部等18人が参加

＜病診連携総会＞

令和7年7月24日（木）（会場：グランディエールブクトーカイ）

静岡市静岡医師会会員・静岡市清水医師会会員・静岡市立静岡病院職員等139人が参加

＜歯科病診連携総会＞

令和7年8月27日（水）（会場：グランディエールブクトーカイ）

静岡市静岡歯科医師会会員・静岡市清水歯科医師会会員・静岡市立静岡病院職員等69人が参加

- ・手術指導や研修会講師など医療機関からの派遣要請に応え、安定的な地域医療の提供と医療水準の向上に貢献した。

＜主な派遣実績＞

静岡厚生病院、清水厚生病院、清水さくら病院、浜松医科大学附属病院、浜松ろうさい病院、静岡市静岡医師会急病センター、静岡市地域リハビリテーション推進センター、志太・榛原救急医療センター、静岡市国民健康保険井川診療所 等

目標値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
紹介率	90.6%	90.8%	91.8%	87.0%	88.7%
逆紹介率	155.5%	153.5%	166.1%	140.0%	162.2%

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
連携安心カード（オレンジカード） 新規発行枚数	231枚	231枚	194枚	212枚

（2）市や関係機関等との連携

○市や関係機関等との連携推進

- ・安心、安全な子育て環境を支援するため、出産（退院）直後から母親の心身の回復や赤ちゃんがいる生活をサポートする「静岡市産後ケア事業」を令和7年8月より開始し、行政と医療の連携した支援に貢献した。
- ・市の新規事業である「発達が気なるこどもの受診待機解消事業」に参画し、面談や心理検査、必要に応じて園や学校などの関係機関と連携した支援に努めた。
- ・医学生の病院実習として令和7年度は35人（浜松医科大学14人、京都大学9人、関西医科大学8人、杏林大学2人、帝京大学1人、北京大学1人）を受け入れた。大学だけでなく医学生個人からの実習申し込みも受け入れ、医学生の育成に取り組んだ。

- ・看護学生の病院実習は 315 人（静岡市立看護専門学校、静岡県立大学看護学部看護学科、常葉大学健康科学部看護学科等）を受け入れた。教養科目、専門基礎科目等の知識を基盤にカリキュラムに沿った実習を医療現場で行い、看護学生の育成に努めた。
- ・当院の感染対策について、三重県議会医療保険子ども福祉病院常任委員会からの依頼により視察を受け入れ、意見交換を通じて施策の推進に協力した。
- ・臨床研修医を対象に月 2 回定期的に開催している「救急講演会」では、受講を希望する静岡市救急隊員の受け入れを行うと共に、当院からも 14 人の臨床研修医が救急自動車同乗研修として研修に参加し、地域の医療技術向上と相互の連携強化に努めた。
- ・静岡市消防局との意見交換会を行い、救急医療への取り組みや課題の共有により相互理解を深め、救急医療の更なる連携強化に努めた。

＜令和 7 年度開催実績＞

第 1 回 令和 7 年 7 月 17 日（木） 出席者 消防局救急課、千代田消防署、静岡病院

第 2 回 令和 7 年 11 月 13 日（木）

出席者 消防局救急課、葵消防署、駿河消防署、千代田消防署、静岡病院

第 3 回 令和 8 年 3 月 9 日（月）

出席者 消防局救急課、警防課、葵消防署、駿河消防署、千代田消防署、日本平消防署、静岡病院

- ・救急の現場において、傷病者に対し迅速かつ的確な救急救命処置を行う能力の向上を図るため、静岡市消防局より 9 人の実習を受け入れた。

＜静岡市消防局警防部救急課＞

救命救急士の就業前病院実習 2 人（実習者 1 人、指導救命士 1 人）、再教育病院実習 7 人

- ・就労支援事業所からの依頼により 14 人（3～5 日間）の障がい者職場実習を受け入れた。また、19 人の病院見学を受け入れた。
- ・静岡市が主催する「市政出前講座」に協力し、市政運営と市民への情報提供に努めた。
- ・イベント開催時の救護所応急対応や各種専門委員会・審査会への参加等、静岡市からの派遣要請に応え事業の運営に協力するとともに公的医療機関としての役割を果たした。

＜主な派遣実績＞

静岡マラソン 2026、静岡市指定難病審査会、静岡市小児慢性特定疾患審査会、静岡市衛生検査所精度管理専門委員会、静岡市診察用放射性同位元素 (RI) 審査委員会、静岡市特別児童扶養手当及び特別障がい者手当等認定診断書審査会、静岡市立看護専門学校 等

参考値

項目	令和 4 年度実績	令和 5 年度実績	令和 6 年度実績	令和 7 年度実績
看護実習受入実人数 (看護学校)	482 人	554 人	458 人	315 人
救命救急士実習受入人数 (消防局)	2 人	14 人	7 人	9 人
障がい者職場実習受入人数 (支援学校等)	9 人	1 人	9 人	14 人

(3) 市民への情報提供

○市民への情報提供と広報活動の充実

- ・広報担当である総務課総務・企画係と広報委員会を中心に、広報誌「体温計」や年報の定期的な発行、講演会の開催、ホームページからの情報発信に加え、LINE を活用したプッシュ型の情報配信など、患者や市民、関連施設等に向けた啓発活動の充実に取り組んだ。
- ・当院と静岡厚生病院、静岡赤十字病院による 3 病院合同市民公開講座を令和 7 年 9 月 26 日に開催した。
＜「おまち」から発信！静岡 3 病院が語る健康と医療＞をメインテーマに各病院から 1 演題ずつ発表。
当院からは「負担の少ない心臓弁膜症の手術」をテーマに循環器内科医師が講演した。
- ・災害時医療の啓発と DMA T 車両の更新を目的として、当院初となるクラウドファンディングを実施した。DMA T の活動意義や実際の活動内容を市民に向けて情報発信し、病院と市民が目的を共有し“共に支える”関係性を構築した。

＜概 要＞

実施期間：令和 7 年 9 月 19 日～11 月 28 日（71 日間）

目標金額：10,000,000 円

寄附総額：16,518,500 円（目標金額対比 約 165%）

寄附者数：248 人

- ・ホームページを活用した情報発信では、二次元コードを掲載した広報誌やイベント用うちわの配布、メディアコラムの掲載、講演会の動画配信等を行った。また、LINE VROOM を活用し、当院の取組や行事の様子を発信することで認知拡大を図った。その結果、訪問数は 539,007（目標達成率 98.0%）となり、前年度実績から約 21,800 増加した。
- ・静岡中心市街地「おまち」の活性化を推進する「I Love しずおか協議会」主催の冬季イベント「冬しず 2025-2026 おまちハートファンタジー」に参画し、地域イベントへの協力を通じて、市民や関係機関との交流促進を図った。
- ・静岡市民からだの学校や市民公開講座の開催、さらに市政出前講座への協力を通じて、患者やその家族、地域の市民を対象とした医療に関する教育・啓発活動を実施した。健康や医療への理解を深める機会を提供し、地域全体の意識向上と安心して暮らせる社会づくりを促進した。

＜第 17 回 静岡市民「からだ」の学校＞

令和 7 年 7 月 24 日（木）（会場：札の辻クロスホール 参加人数 91 人）

テーマ：「脚の骨折を知ろう ～いくつになっても歩ける体を目指して～」

＜地域版 静岡市民「からだ」の学校 in 井川＞

令和 7 年 9 月 24 日（水）（会場：井川生涯学習交流館 参加人数 13 人）

テーマ：「脚の骨折を知ろう ～いくつになっても歩ける体を目指して～」

＜第 18 回 静岡市民「からだ」の学校＞

令和 7 年 11 月 8 日（土）（会場：市立静岡病院 西館 12 階講堂 参加人数 51 人）

テーマ：「がんゲノム医療を正しく知ろう！」

＜第 19 回 静岡市民「からだ」の学校＞

令和 8 年 2 月 28 日（土）（会場：札の辻クロスホール 参加人数 91 人）

テーマ：「肺がん治療をチームで支える！

3 人の専門医が語る、診断から最適な治療法まで」

＜市民公開講座＞

令和 7 年 9 月 26 日（金）（会場：札の辻クロスホール 参加人数 101 人）

テーマ：3 病院合同市民公開講座

「おまち」から発信！静岡 3 病院が語る健康と医療

＜市政出前講座（主な実績）＞

令和 7 年 10 月 1 日（水）（会場：静岡県教育会館/静岡森林管理署 参加人数 83 人）

テーマ：「ウイルス性の病気と感染対策

～新型コロナ、インフルエンザ、ノロウイルスなど～

令和 7 年 10 月 8 日（水）（会場：県営住宅東部団地集会所/静岡市長尾川地域包括センター 参加人数 87 人）

テーマ：「良い睡眠でからだもこころも健康に」

令和 7 年 11 月 14 日（金）（会場：清水東部老人憩の家/清水東部老人憩の家 参加人数 95 人）

テーマ：「良い睡眠でからだもこころも健康に」

目標値

項目	令和 4 年度実績	令和 5 年度実績	令和 6 年度実績	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績
病院ホームページ訪問数（※）	453,099	471,482	517,204	550,000	539,007

※ 訪問数…セッション数。ホームページへのアクセスから離脱までを「1」とする指標。

参考値

項目	令和 4 年度実績	令和 5 年度実績	令和 6 年度実績	令和 7 年度実績
市政出前講座 受講延べ人数	1,036 人	730 人	901 人	1,039 人
中学生対象 「がん教育」活動実績	9 校 15 講義・11 日間	9 校 14 講義・9 日間	7 校 12 講義・7 日間	10 校 15 講義・10 日間

第 3 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 効率的な業務運営等

○効率的な業務運営と改善活動

- ・経営統括会議を 29 回開催し、組織・人事・財務に関する課題の検討を行った。また、病院運営上の課題については運営会議を 24 回開催し、迅速な解決に努めた。毎月、重要業績評価指標（KPI）の進捗管理や分析・検討を行うとともに、院長による各診療科ヒアリングにおいて、KPI 実績の評価や今後の対策等について意見交換を実施した。

重要業績評価指標（KPI）… 新入院患者数、外来紹介患者件数、手術室手術件数、

救急外来からの入院患者数、1日平均入院患者数、
平均在院日数、入院単価、入院収益、稼働率（ICU・HCU）

- ・経営状況の改善に向け、事業管理部施設課物品係を医事経営部経営課へ改編し、ベンチマークを活用した診療材料費の抑制など、コスト管理を重視した体制を整備した。
- ・市場価格や契約条件の妥当性など、職員のみでは検証が困難な医療機器等の保守契約について専門的な知見を有する事業者へ委託し、価格水準の調査と価格交渉の支援を受けた。契約内容の適正化及び委託費用の見直しを図るとともに、職員の知識向上を図った。
- ・看護方式を固定チームナーシングからセル看護提供方式®へ移行した。患者の傍で直接看護を行う体制としたことで、動線や記録の無駄が削減され業務効率化が図られた。すべての看護師が医師の指示を直接受け適切に対応することで、看護の質の向上に寄与した。また、リーダー制を廃止し、身近な先輩看護師に相談できる体制としたことにより、新人看護師がより相談しやすい環境が確保され、教育環境の向上につながった。
- ・定型業務の自動化（RPA）を推進し、業務の効率化及び生産性の向上を図るとともに、人的ミスの削減、人件費及び事務コストの抑制を通じた経営改善に取り組んだ。RPAを推進するコミュニティイベントでの事例発表を通じて、他機関からの視察受け入れに繋げた。
- ・院内用スマートフォンを新たに導入するとともに、LINE WORKS の活用を開始し、迅速かつ円滑な情報共有体制を整備した。チャットやグループトーク機能の活用により、職員間のコミュニケーションを活性化し、院内の連携強化と効率的な業務運営に努めた。
- ・クリニカルパスの活用や適切な看護、柔軟な病床管理により平均在院日数は 9.9 日（達成率 111.1%）へ短縮した。これにより 1 日平均入院患者数は 398 人（達成率 94.8%）に減少したが、新入院患者数は 13,357 人（前年度比+347 人）、入院単価は 103,927 円（前年度比+3,723 円）に増加し高度急性期医療の提供を推進した。
- ・効率的な業務運営及び継続的な改善活動を推進するため、医療の質の向上や職場環境の改善、経営改善等に資する優れた取組みについて、独法化後初めての職員表彰を実施した。表彰により、職員の改善意識及び主体的な業務改革への参画意欲の向上を図るとともに、変化や挑戦を積極的に受け入れる組織風土の醸成を推進した。また、最優秀賞の「物品の適正配置による看護業務の効率化」は、静岡県版看護業務効率化アワード 2025 においても優秀賞に選出され、施策の有効性及び実用性が対外的にも認められ、業務改善に資する取組として高い評価を受けた。

<最優秀賞>

「物品の適正配置による看護業務の効率化」（看護部 カイゼンプロジェクトチーム）

各部署の裁量で配置されていた診療材料、日用品、文具類の適正配置を定め、日常業務の「ムリ・ムダ・ムラ」を減らした。

ほか、優秀賞 8 件

- ・総務省の「地方公共団体の経営・財務マネジメント強化事業」を活用し、診療科別 KPI の進捗確認や同規模病院の取組状況等について実務的な助言を受け、課題可決に取り組んだ。

目標値

項目	令和 4 年度実績	令和 5 年度実績	令和 6 年度実績	令和 7 年度目標	令和 7 年度実績
1 日平均入院患者数	419 人	407 人	405 人	420 人	398 人
平均在院日数	11.6 日	10.6 日	10.4 日	11.0 日	9.9 日

参考値

項目	令和 4 年度実績	令和 5 年度実績	令和 6 年度実績	令和 7 年度実績
入院単価	91,128 円	96,807 円	100,204 円	103,927 円
新入院患者数	12,110 人	12,795 人	13,010 人	13,357 人

2 教育研修の充実

○教育研修の充実と環境整備

- ・新規採用職員を対象に多職種合同研修を令和 7 年 4 月 24 日（木）に実施した。基礎スキルや職場ルールの早期習得、組織における役割理解、同期職員間の連帯意識の醸成と孤立・不安感の解消などを目的として、グループディスカッション及び移乗・救急・感染対策の実技等を通じ、チームビルディングの基礎習得を図った。
- ・幅広い教育機会を提供し、職員一人ひとりの専門性及び実務能力の向上を図るため、学会、専門研修、外部講習会、オンライン研修等への参加を積極的に推進するとともに、受講料等の費用支援を行うことで、職種や所属を問わず参加しやすい環境整備に努め、継続的な能力向上を促進した。
- ・シミュレーションラボ室やトレーニングルーム（東館 5 階）の活用、院内各部署での BLS（一次救命処置）

研修の活発な実施等により、実習プログラム受講延べ人数は 2,990 人（達成率 271.8%）と目標値を大きく上回った。

＜主なプログラムと受講延べ人数＞

- ＞BLS（一次救命処置）実習…………… 1,593 人
 - ＞看護技術研修（点滴・吸引・導尿等）…………… 672 人
 - ＞ICLS（蘇生教育）コース・インストラクター養成ワークショップ…………… 99 人
 - ＞日本新生児・周産期医学会認定NCPR（新生児蘇生法）……………61 人
 - ・各部署から医療技術やサービスの品質向上に向けた取り組みを発表する「令和7年度 ホスピタルリザルト報告会（ポスター形式）」を開催し、職員の医療技術の向上を図った。（開催期間：令和8年2月2日～3月31日）
 - ・臨床研修医の指導を行う指導医数は、各診療科の積極的な受講により前年度の 58 名から 69 名に増加した。
 - ・第42回看護研究発表大会を「知ろう！私たちの看護」をテーマとして11月26日（水）から2日間開催した。146 人が参加し後日、動画を院内に配信した（再生回数 330 回）。日々の看護実践を振り返り共有することで、専門性の向上及び相互理解の深化を図り、看護の質の向上に取り組んだ。
- ＜第42回看護研究発表大会＞

- ＞大腸ポリープ切除後の患者が抱く心配事／内視鏡放射線検査室
- ＞危険行動をとる患者への看護と判断の実際／東9階
- ＞HCU看護師における挿管患者の身体拘束解除の判断理由／東8階
- ＞栄養経路を選択する患者家族の心境の変化／東10階
- ＞心不全患者が定期受診日より前に受診した背景／東7階
- ＞トリアージ担当看護師の思考と行動／救急外来

目標値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
実習プログラム（※） 受講延べ人数	1,780 人	1,498 人	2,353 人	1,100 人	2,990 人

※ 実習プログラム…主に医師・看護師対象の、トレーニング機器を利用した診療行為別の訓練メニュー

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
シミュレーションラボ室 利用延べ人数	4,309 人	3,848 人	4,889 人	5,947 人
臨床研修指導医数	56 人	59 人	58 人	69 人

3 職員の勤務意欲の向上

○職員満足度向上に向けた取り組み

- ・給料表の改定、期末・勤勉手当の引き上げ、医師等の宿日直手当の見直し等を行った。パートタイマーの賃金改定、通勤手当の支給限度額の見直し及び子に係る扶養手当の段階的な引き上げ、再雇用職員に対する住居手当の支給拡大等により、処遇の改善を図った。
- ・新採用看護師に対して副看護部長等による面談と定期的なサポートを行うと共に、看護師全体を対象とした所属長面談を実施し、離職防止に努めた。
- ・前年度より看護師、助産師及びNA（ナースिंगアシスタント、看護補助者）を対象とした夜勤専従実施要綱を制定し、職員が希望した場合には夜勤のみに従事することができ勤務形態を整備し、看護師の夜勤に伴う負担軽減を図るとともに多様な働き方へ対応できる体制を整えた。令和7年度は看護師8名、NA1名から申し出があり実施した。
- ・海外で開催された学会で演題発表を行った医師3名に対して、選考により海外演題発表奨励金を支給し、職員の勤務意欲の向上と自己啓発の支援及び促進に努めた。
- ・看護師の特定行為研修修学資金貸与制度で新たに5名が制度利用による受講を開始。職員の資格取得支援を行った。
- ・独法化後初めて職員表彰を実施した。表彰にあたっては、表彰状及び記念品を授与し、職員一人ひとりの努力や成果を組織として顕彰した。

◆職員満足度調査概要

対象者：全職員（パートタイマー職員含む）
 調査期間：12月2日（火）～12月22日（月）まで
 回答者数：900 人（回答率 69.7%）

Q 1 「現在の仕事にやりがいがあると思いますか」 3.76 (達成率 100.3%)

参考：一般病院(500床以上)ベンチマーク 3.76

Q 2 「当院を職場としてすすめようと思いますか」 2.96 (達成率 100.3%)

参考：一般病院(500床以上)ベンチマーク 2.94

目標値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和7年度 目標	令和7年度 実績
職員満足度（5段階評価）					
Q.現在の仕事にやりがいがあると思いますか	3.71	3.78	3.79	3.75	3.76
Q.当院を職場としてすすめようと思いますか	2.92	2.91	2.99	2.95	2.96

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
資格取得支援制度利用者数	7人	8人	4人	7人
教育休職制度等利用者数	2人	1人	1人	1人
育児・介護休業制度利用者数	75人	84人	99人	84人

4 事務部門の強化

○事務職員の育成

- ・事務職員に対し「目標による管理」を試行した。業務の進捗管理や上司との面談を通じて、業務の進め方や改善点についての指導を行い、達成度に応じて年度末に業績評価を行うことで、職員の事務遂行能力を高めるよう取り組んだ。
- ・財政状況の改善に向け、事業管理部施設課物品係を医事経営部経営課へ改編し、ベンチマークを活用した診療材料費の抑制など、コスト管理を重視した体制を整備した。
- ・県外の8医療機関及び1機構の有志による「病院経営企画・戦略に係る情報交換会」に参加。コンサルタントによる医療を取り巻く情勢報告のほか、保守契約手法や費用削減策、共同購入等について意見交換を行い、今後の業務改善に資する理解を深めた。
- ・令和7年4月より、事務職員人材育成プランの運用を開始した。病院事務職員に必要な基礎的な知識や能力の習得を目的に、業務担当者を講師とした研修会を開催した。

(令和7年8月) 高額療養費制度について/高額療養費制度について(医事課)、
『医業収益』の構成要素について(経営課)

(令和7年9月) 契約事務について(総務課)、各所属業務PR(医事課/経営課/総務課/人事課/
施設課/総合相談センター/教育研修管理センター)

(令和7年10月) 医師の働き方改革について(人事課)、会計事務・複式簿記・財務諸表について
(総務課)

(令和7年11月) 建築物の地震対策(施設課)、クラウドについて(経営課)

(令和7年12月) 総合相談センター内の業務と紹介患者について(総合相談センター)

(令和8年1月) 医師免許取得後の研修制度について/特定行為に係る看護師の研修制度
(教育研修管理センター)

(令和8年2月) 医薬品の購入について(経営課)

- ・主事、主任主事級の事務職員を対象に、階層別集合研修としてキャリア支援セミナーを実施した。自己理解の深化を通じた主体的な能力開発及びキャリア形成の促進を図るとともに、グループワークにより横の連携強化とコミュニケーションの活性化を推進した。あわせてキャリアコンサルタントによる個人面談を行い、当事者意識の醸成と組織の活性化に取り組んだ。
- ・静岡市が主催する階層別研修や選択研修に事務職員9人が参加し、職位別に必要となる知識や事務職員としての事務能力向上等を図り、事務部門の強化に努めた。

<階層別研修>

- ・説明能力向上研修(採用3年目研修)
- ・総合マネジメント研修(主査級研修)
- ・組織のタイムマネジメント(係長研修)

<選択研修>

- ・クレーム対応研修(コミュニケーション能力)
- ・レジリエンス研修(業務遂行能力)
- ・段取り力向上研修(業務遂行能力)

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
自院主催研修 事務職員受講者数	60人	63人	58人	40人
静岡市主催研修 事務職員受講者数	19人	17人	6人	9人
医療団体等主催外部研修 事務職員受講者数	9人	19人	17人	7人

第4 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 経営指標に係る数値目標の設定

○数値目標達成に向けた取り組み

- ・ 医業収益は、21,745 百万円（前年度比+576 百万円）となった。外来収益は延べ患者数が 240,370 人（前年度比 ▲1,112 人）に減少したものの外来単価が 26,192 円（前年度比+1,215 円）に増加したことにより 6,296 百万円（前年度比+264 百万円）に増加した。入院収益は延べ患者数が 145,334 人（前年度比▲2,666 人）に減少したものの入院単価が 103,927 円（前年度比+3,723 円）に増加したこと、新入院患者数が 13,357 人（前年度比+347 人）に増加したことにより 15,104 百万円（前年度比+274 百万円）に増加した。
- ・ 医業費用は、給与改定や職員数の増加による給与費の増加、材料費や経費の増加により 23,499 百万円（前年度比+668 百万円）となった。また、臨時損失として医師住宅返還による固定資産除却損 346 百万円を計上した。
- ・ 経常収支比率は 98.6%（達成率 103.0%）、医業収支比率は 92.5%（達成率 102.3%）と共に目標値を達成した。

（参考） 純損益 令和5年度 93,119,159 円
令和6年度 ▲843,449,848 円
令和7年度 ▲688,623,608 円

目標値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
経常収支比率	105.1%	100.4%	96.9%	95.7%以上	98.6%
医業収支比率	94.2%	94.4%	92.7%	90.4%以上	92.5%

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
不良債務比率	0%	0%	0%	0%
資金不足比率	0%	0%	0%	0%
累積欠損金比率	0%	0%	3.6%	2.8%

2 収入の確保及び費用の節減

○収入の確保及び費用の節減に向けた取り組み

- ・ 財政状況の改善に向け、事業管理部施設課物品係を医事経営部経営課へ改編し、ベンチマークを活用した診療材料費の抑制など、コスト管理を重視した体制を整備した。

（収入の確保）

ア 適切な診療報酬請求事務の実施

- ・ 施設基準の取得については、定期的に取得可否を検証し機会損失のないよう対応した。
（参考：令和7年度 施設基準取得は7件、年間21,000千円の増収）
- ・ 診療報酬制度の適正理解と運用強化を目的として職員を対象に講習会を開催した。知識向上を図るとともに、算定漏れの防止や請求精度の向上に努めた。

<診療報酬に関する講習会>

令和8年1月29日（木）（会場：市立静岡病院 西館12階講堂等 受講人数667人）

テーマ：「令和8年度診療報酬改定について」 講師：㈱スズケン 岡山 幸司 氏

令和8年3月23日（月）（会場：市立静岡病院 西館12階講堂等 受講人数117人）

テーマ：「令和8年度診療報酬改定と医療制度の動向」 講師：㈱ニチイ学館 山田 良介 氏

イ 未収金発生防止と回収の取組

- ・ オンライン資格確認システムを活用した健康保険証や限度額適用認定証の速やかな確認及び、職員による督促を行い令和7年度の収納率は99.52%（前回98.67%）となった。

ウ 地域医療機関との連携

- ・地域連携部門による紹介予約の集約管理、医師の同行訪問による地域の医療機関との関係強化、指標の定期的な把握と検証により、紹介率・逆紹介率は前年度と同水準を維持した。

エ その他

- ・外的要因が強く内部努力のみでは抑制困難な光熱費の高騰等に加え、記載内容の複雑化や近隣公的医療機関の料金水準を踏まえ、文書料、調査料及び個室料の引き上げを行った。

(費用の節減)

ア 給与費抑制に係る取組

- ・静岡市人事委員会勧告を踏まえた給与改定については、令和7年度の経営状況を勘案し、同年12月1日から遡及適用とした。また、経営への影響に留意しつつ勤務環境の改善など働き方改革を推進し、職員の適正配置や時間外勤務の抑制により給与費の適正管理に努めた。
- ・職員数の増加及び全国的な賃上げ等の影響により医業費用における給与費は10,714百万円（前年度比+286百万円）、目標値の給与費比率は49.3%（達成率101.4%）となった。

イ 医薬品や診療材料費等の抑制に係る取組

- ・後発品の採用については、毎月の薬剤委員会にて各メーカーからの最新情報を検証し、切替可能な医薬品から行い、後発医薬品指数は91.58%となった。
- ・医薬品価格交渉については、アドバイザーからの最新の市場価格情報に基づき医薬品ディーラーと定期的に交渉（年2回）し、主要5社の医薬品最終値引率は14.27%となった。
- ・市場価格や契約条件の妥当性など、職員のみでは検証が難しい医療機器等の保守契約について、専門的な知見を有する事業者へ委託し、価格水準の調査と価格交渉の支援を受けた。契約内容の適正化及び委託費用の見直しを図るとともに、職員の知識向上を図った。
- ・令和7年10月より、共同購入を推進する外部団体（県内13病院参加）へ新たに参加し、医療の質および安全性を確保・維持することを前提としながら、スケールメリットを最大限に活用した診療材料の持続的なコスト削減と効率的な管理体制の構築を推進した。
- ・在庫管理については、医薬品は年4回、診療材料は年7回の実地たな卸しを行い、在庫管理の徹底や期限切れ等による減耗損の発生防止に努めた。

ウ 職員の経営意識の醸成

- ・厳しい経営状況を踏まえ、職員のコスト意識の向上を目的として経費削減の取組を強化した。ペーパーレス化や集約印刷およびモノクロ印刷の推進、適正な空調管理と消灯の徹底、夜間・休診日のエレベーターの一部停止、階段利用を促す「2up3down」の励行等によりコスト意識の定着を図った。

目標値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度目標	令和7年度実績
職員給与費比率	48.2%	46.8%	49.3%	50.0%以下	49.3%
経費比率	16.2%	15.7%	16.0%	18.0%以下	15.8%
委託費比率	8.2%	8.0%	8.1%	9.1%以下	8.5%

参考値

項目	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	令和7年度実績
病床稼働率（506床）	82.8%	80.4%	80.1%	78.7%
入院収益	13,931百万円	14,416百万円	14,830百万円	15,104百万円
外来収益	5,926百万円	6,247百万円	6,031百万円	6,296百万円
薬品費比率	18.3%	18.6%	17.8%	18.4%
診療材料費比率	16.1%	17.2%	17.5%	17.4%

第5 その他業務運営に関する重要事項に係る目標を達成するためとるべき措置

1 法令等の遵守

○法令等の遵守

- ・理事会を定期的に開催し、業務執行状況の適切な把握と審議内容の充実に努めることで、内部統制の強化及び充実を図り、適正な組織運営を継続的に推進した。
- ・静岡市保健所による医療法第25条第1項に基づく立入検査において、静岡市消防局よりスプリンクラーヘッドの設置、散水障害の除去、感知器・誘導灯の改修等6件の指摘を受け、対応を進めた。
- ・当院のメインバンクである清水銀行と、令和7年10月8日に「遺贈に関する協定」を締結した。協定に基づき遺贈希望者に対する専門的な相談体制を提供し、遺贈の適正な執行の確保を図った。
- ・会計検査院による会計実地検査が、令和7年11月13日に実施された。補助金等に係る事業に関する第

三者機関による客観的な検査により、執行手続きの正確性と透明性、法令・要綱等の遵守状況が確認され、指摘事項なく適正と評価された。

- ・東海北陸厚生局による施設基準等に係る適時調査が令和7年11月28日に実施された。診療報酬算定に関する制度理解および運用状況について、第三者機関による客観的な検査の結果、返還金の発生を伴う指摘はなく、総じて適正と評価された。
- ・令和7年10～11月を個人情報保護重点取組月間とし、各部署で目標と取組内容を定めて活動した。12月には個人情報保護院内ラウンドを実施し、管理体制の強化と職員の意識向上を図った。また、保有する個人情報の透明性確保のため個人情報ファイル簿を作成・公表し、適正な管理に努めた。

＜個人情報保護講演会＞

令和7年10月31日（金）（会場：静岡病院西館12階講堂ほかeラーニング 受講者数 1,221人）

テーマ：1 個人情報保護法の概要とポイント 講師：まどか法律事務所 山本 正幸氏

2 事故発生時の迅速な報告について 講師：総務課 森川 秀幸 主幹兼係長

- ・職員を対象としたハラスメント防止研修会を開催した。また、ハラスメント防止に関する院内への注意喚起や相談窓口の周知等、職場内のハラスメント防止に取り組んだ。

＜ハラスメント防止研修会＞

令和7年11月14日（金）（会場：静岡病院西館12階講堂等 受講人数 47人）

テーマ：「ハラスメントオンライン研修講座（厚生労働省監修【動画視聴】）」

講師：成蹊大学教授 原 昌登 氏

「最近のハラスメント事例について」

「当院のハラスメント相談体制及びハラスメントに関する規程について」

- ・情報セキュリティ対策として、攻撃メール訓練や ICT-BCP 机上訓練、情報セキュリティ研修会を開催し、情報漏えい等が発生するリスクとその対策について周知した。また、電子カルテシステムの主要な機能を担っている機器に、より高度なセキュリティシステムを導入しサイバー攻撃に対するセキュリティ強化を図った。

＜標的型攻撃メール訓練＞

令和7年12月19日（金）（対象人数 100人）

静岡県警より院内メール 100 アカウントに訓練メールを送信。メール内URLへのアクセスは3人（開封率 3.0%）で、このうち経理課医療情報係への報告者数は0人（報告率 0%）であった。

未報告者に報告義務があることを周知し、職員のセキュリティ意識の向上に努めた。

＜ICT-BCP机上訓練＞

令和8年3月13日（金）（参加人数 院内職員（電算委員）13人）

医療情報システム安全管理責任者（電算委員長）の指示のもと、電算委員による ICT-BCP に基づいた机上訓練を実施した。訓練の結果、本来であれば停電時等に使用する院外処方箋の備えがないなどの課題が明らかとなったため、必要物品の整備および運用体制の見直しを行った。

＜情報セキュリティ研修会＞

令和8年2月16日（月）（会場：静岡病院西館12階講堂ほかeラーニング 受講者数 254人）

テーマ：「サイバーセキュリティ講話」「サイバー脅威情勢と対策について」

講師：静岡県警察本部 警備部 公安課

参考値

項目	令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 実績	令和7年度 実績
医療法第25条第1項に基づく立入検査での指摘事項数	0件	0件	7件	6件
個人情報保護講演会受講者数	777人	817人	455人	1,221人
ハラスメント防止研修会受講者数	55人	78人	73人	47人

2 施設・医療機器等の更新

○施設・医療機器等の更新

- ・定型業務の自動化並びに業務運用の標準化・安定化を目的に、RPAの構築を推進した。

＜令和7年度 新規稼働例＞

看護必要度報告明細データ出力・・・看護必要度速報値の作成時に使用する報告明細の作成

稼働額速報データ出力・・・・・・速報値を用いた医業収益因数分解モデル作成用のデータ抽出

転倒転落アセスメントシートデータ出力・・・・転倒転落評価用データの抽出

- ・医療現場に特有の複雑性及び公平性が求められる勤務シフト作成業務について、A I（人工知能）及び数値モデルを活用した医師当番表の自動作成システムを導入した。令和8年度中の本格運用開始を目指し、院内ルールの精査、システムの構築並びに業務の属人化解消に取り組んだ。
- ・院内スマートフォンを新たに導入し、院内の通信機器を更新するとともに、LINE WORKS を活用した迅速な連絡体制を整備した。
- ・医療の質と安全性の向上、職員の働きやすい環境づくり等を目的に施設設備や医療機器の更新・改修を実施し、医療提供体制の充実を図った。

＜主な施設設備及び医療機器の更新＞

- ・ハイブリッド手術室対応血管撮影装置更新
- ・無影灯更新
- ・手術台更新
- ・I C Uベッド更新
- ・東館 11 階職員休憩室改修工事
- ・防犯カメラ設備入替工事
- ・西館熱源設備更新工事

Ⅲ. 法人の内部統制の状況

当法人は、内部統制に係る基本方針を定め、内部統制体制の整備し、内部統制の充実及び強化を図っています。

＜内部統制に関する基本方針（業務方法書 第5条）＞

法人は、役員（監事を除く。）の職務の執行が法、他の法令、設立団体の条例若しくは規則又は定款に適合することを確保するための体制その他法人の業務の適正を確保するための体制を整備するとともに、継続的にその見直しを図るものとする。

【令和7年度実績】

・理事会の開催

第1回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 令和7年4月24日（木）開催

- ・理事長、役員挨拶
- ・事務局職員紹介
- ・病院紹介
- ・年間スケジュール、事業計画・業務実績評価について

第2回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 令和7年6月27日（金）開催

- | | |
|------|---------------------------|
| 審議事項 | 議案第1号 令和6年度財務諸表等の承認について |
| | 議案第2号 令和6年度業務実績報告書の承認について |
| 報告事項 | 報告第1号 債権の放棄について |
| | 報告第2号 看護師等修学資金について |

第3回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 令和7年9月25日（木）開催

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 審議事項 | 議案第1号 令和8年度予算編成要領について |
| | 議案第2号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院組織規程の一部改正について |
| | 議案第3号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院管理規程の一部改正について |
| 報告事項 | 報告第1号 株式会社清水銀行との遺贈に関する協定の締結について |
| | 報告第2号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院 |

令和6年度業務実績に関する評価結果について

第4回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 令和7年12月11日（木）開催

- | | |
|------|-------------------------------------|
| 審議事項 | 議案第1号 令和7年度予算の変更について |
| | 議案第2号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院組織規程の一部改正について |
| 報告事項 | 報告第1号 専決処分の報告について |
| | 報告第2号 令和7年度上半期の経営状況について |

第5回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 臨時会（書面開催）

- | | |
|------|---------------------------------------|
| 審議事項 | 議案第1号 人事案件について |
| | 議案第2号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院職員給与規程の一部改正について |
| | 議案第3号 令和7年度予算の変更について |

議 決 日 令和8年3月11日（水）

第6回地方独立行政法人静岡市立静岡病院理事会 令和8年3月19日（木）開催

- | | |
|------|--|
| 審議事項 | 議案第1号 令和8年度計画について |
| | 議案第2号 令和8年度予算について |
| | 議案第3号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院職員給与規程等の一部改正について |
| | 議案第4号 地方独立行政法人静岡市立静岡病院組織規程の一部改正について |
| 報告事項 | 報告第1号 令和7年度決算見込について |

・内部監査の実施

令和7年度静岡市立静岡病院内部監査（会計監査）

監査期間 令和7年9月～令和8年2月

監査対象 各月における収入・支出をはじめとした会計処理及び予算執行事務

内部監査責任者 事業管理部 参与兼総務課長

内部監査担当者 事業管理部 総務課経理係長及び係員2名

令和7年度静岡市立静岡病院内部監査（業務監査）

監査期間 令和7年9月～令和8年2月

監査対象 総務課/人事課/施設課/経営課/医事課/総合相談窓口において、令和7年度事業として実施した委託料、賃借料、手数料、修繕費、報償費、食料費の執行計36件の契約事務

内部監査責任者 事業管理部 総務課長

内部監査担当者 所属長からの推薦により内部統制統括責任者（事業管理部長）が任命した職員9名
（総務課/人事課/施設課/経営課/医事課）

IV. 業務運営上の課題・リスク管理の状況

（1）リスク管理の状況

法人では、地方独立行政法人静岡市立静岡病院リスク管理に関する規程に基づき、法人の使命及び目標の達成を阻害する要因を定め、リスクの発生の防止又はリスクが発生した場合の損失の最小化に取り組んでいます。

＜リスク管理体制＞

1. 理事長は、法人におけるリスク管理を統括し、かつ、最終的な責任を有する。
2. 事業管理部長は、理事長を補佐し、リスク管理総括管理者として、リスク管理を総括する。
3. 部等（室及びセンターを含む。以下同じ。）の長は、リスク管理責任者として、部等におけるリスク管理を総括する。

＜リスク管理委員会＞

法人は、法人におけるリスク管理の検討、審議等を行うため、リスク管理委員会を置き、経営統括会議をもって充てる。

（2）業務運営上の課題

法人の目的を阻害する主な要因は次のとおりです。

1. 法令等の遵守に関するもの
2. 財務報告に関するもの
3. 情報システムに関するもの
4. 医療に関するもの
5. 事務手続に関するもの
6. 災害又は事件等に関するもの
7. その他法人の業務遂行に関するもの

法人では、安心・安全な医療の提供（医療安全対策、法令・行動規範の遵守の徹底）、災害時医療・感染症医療の提供など、様々なリスクに対する備えと発生時の対応や、損失の最小化を図るための対策を検討し、リスク管理に努めています。詳細は、Ⅱ.業務実績等の状況を参照ください。

V. 予算と決算の対比

(1) 予算（令和7年度）

（単位：百万円、税込）

区分	予算額	決算額	差額 決算－予算
収入	24,406	25,388	982
営業収益	23,936	24,673	738
医業収益	21,526	21,823	297
運営費負担金収益	2,124	2,124	0
補助金等収益	286	716	430
その他営業収益	0	10	10
営業外収益	136	153	16
運営費負担金収益	46	46	0
財務収益	5	16	11
その他営業外収益	85	90	5
臨時利益	0	0	0
資本収入	334	562	228
長期借入金	300	300	0
寄附金収入	0	207	207
その他資本収入	34	55	21
その他収入	0	0	0
支出	24,952	24,685	▲267
営業費用	22,755	22,711	▲44
医業費用	22,297	22,312	16
給与費	10,675	10,647	▲28
材料費	7,638	7,914	276
経費	3,883	3,662	▲221
研究研修費	100	89	▲12
一般管理費	458	399	▲59
営業外費用	132	132	0
臨時損失	0	0	0
資本支出	2,065	1,842	▲223
建設改良費	1,390	1,184	▲206
償還金	593	593	0
その他資本支出	82	65	▲17
その他支出	0	0	0

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

【人件費】

期間中総額 11,010 百万円を支出した。なお、当該金額は、役員報酬、職員基本給、職員手当、法定福利費及び退職手当の額に相当するものである。

(2) 収支計画（令和7年度）

（単位：百万円、税抜）

区分	計画額	決算額	差額 決算－計画
収入の部	24,111	24,831	720
営業収益	23,983	24,685	702
医業収益	21,487	21,745	258
運営費負担金収益	2,124	2,124	0
補助金等収益	286	716	430
寄附金収益	0	10	10
資産見返負債戻入	86	89	3
営業外収益	128	146	18
運営費負担金収益	46	46	0
財務収益	5	16	11
その他営業外収益	77	84	7
臨時利益	0	0	0
支出の部	25,204	25,520	315
営業費用	23,910	23,923	12
医業費用	23,454	23,499	45
給与費	10,669	10,714	45
材料費	7,623	7,834	211
経費	3,609	3,428	▲180
減価償却費	1,460	1,439	▲21
研究研修費	93	83	▲10
一般管理費	457	424	▲32
営業外費用	1,294	1,251	▲43
臨時損失	0	346	346
純利益（または純損失）	▲1,094	▲689	405
目的積立金取崩額	0	0	0
総利益（または総損失）	▲1,094	▲689	405

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

(3) 資金計画（令和7年度）

（単位：百万円、税込）

区分	計画額	決算額	差額 決算－計画
資金収入	29,983	30,559	576
業務活動による収入	24,067	24,646	579
診療業務による収入	21,526	21,573	47
運営費負担金による収入	2,170	2,170	0
その他の業務活動による収入	371	903	532
投資活動による収入	34	47	13
運営費負担金による収入	0	0	0
その他の投資活動による収入	34	47	13
財務活動による収入	305	300	▲5
長期借入れによる収入	300	300	0
その他の財務活動による収入	5	0	▲5
前年度からの繰越金	5,577	5,566	▲11
資金支出	29,983	30,559	576
業務活動による支出	22,887	23,537	651
給与費支出	11,121	11,140	18
材料費支出	7,638	8,582	944
その他の業務活動による支出	4,127	3,816	▲311
投資活動による支出	1,081	786	▲295
有形固定資産の取得による支出	999	719	▲281
無形固定資産の取得による支出	0	2	2
その他の投資活動による支出	82	65	▲17
財務活動による支出	984	1,006	21
長期借入金の返済による支出	300	300	0
移行前地方債償還債務の償還による支出	293	293	0
その他の財務活動による支出	391	412	21
次年度への繰越金	5,031	5,230	199

（注）計数は、端数をそれぞれ四捨五入しているため、合計で一致しないものがある。

VI. その他市の規則で定める業務運営に関する事項

施設及び設備に関する計画（令和7年度）

（単位：百万円、税込）

施設及び設備の内容	決算額	財 源
施設、医療機器等整備	1,184	静岡市長期借入金等

VII. 財務諸表及び運営状況

(1) 決算概要

令和7年度は、病院団体等の強い要望を受け、国は賃上げや物価上昇への対応として、医療・介護等支援パッケージによる支援を実施するとともに、令和8年度診療報酬改定に向けて物価上昇等を反映するなど、病院経営を取り巻く環境に大きな動きが見られた1年となりました。

当院においては、第3期中期計画の3年目として、引き続き急性期診療体制の強化を推進しました。地域医療連携による早期退院の促進等を通じて在院日数の短縮を図るとともに、「断らない医療」の実践として救急患者の積極的な受入れを進め、新規入院患者の確保に努めました。

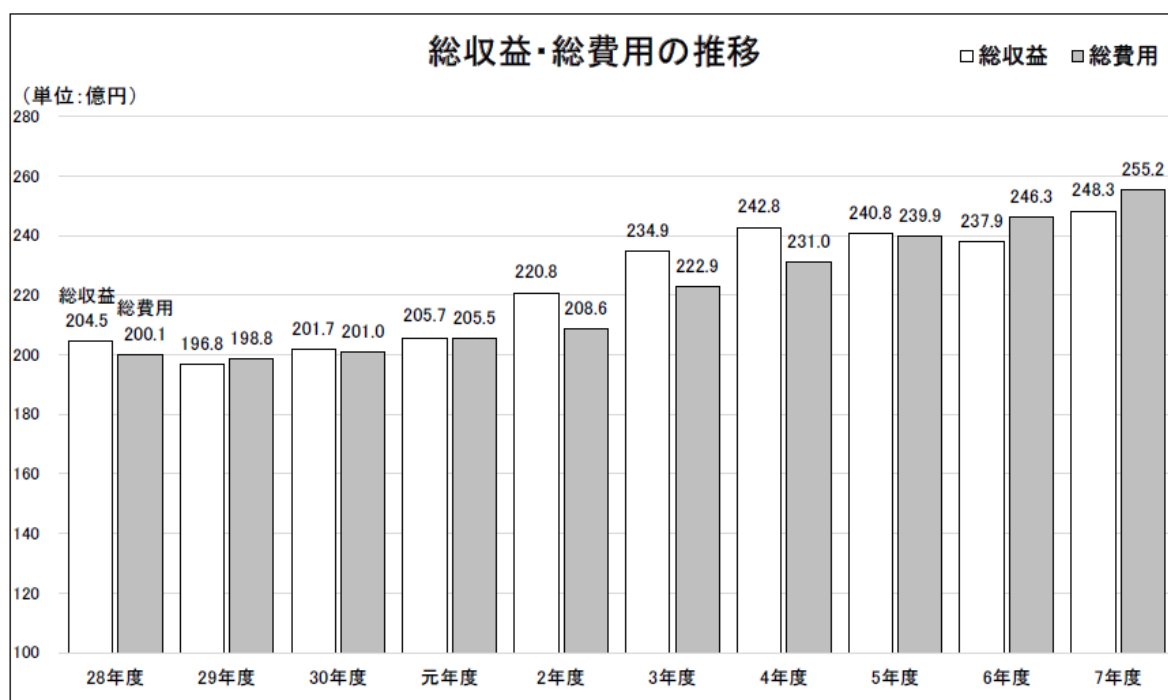
これらの取組により、新規入院患者数は令和3年度から連続して増加し、入院収益は初めて150億円を超えました。

収益面では、入院収益は151.0億円（前年度比2.7億円増）、外来収益は63.0億円（同2.6億円増）となりました。また、国の「賃上げ・物価上昇に対する支援事業」などの補助金により、補助金等収益は7.2億円（同4.6億円増）となりました。

費用面では、医業費用の給与費は職員の増員や給与改定等の影響により、107.1億円（同2.9億円増）、材料費は78.3億円（同3.2億円増）となりました。

また、当院の医師住宅を設立団体である静岡市へ返還したことにより、3.5億円の臨時損失を計上しました。

これらの結果、令和7年度の総収益は248.3億円（同10.4億円増）、総費用は255.2億円（同8.9億円増）となり、当期純損益は6.9億円の赤字（同1.5億円の赤字減）となりました。

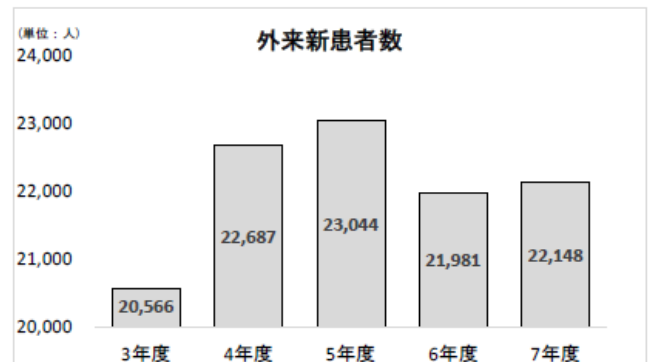
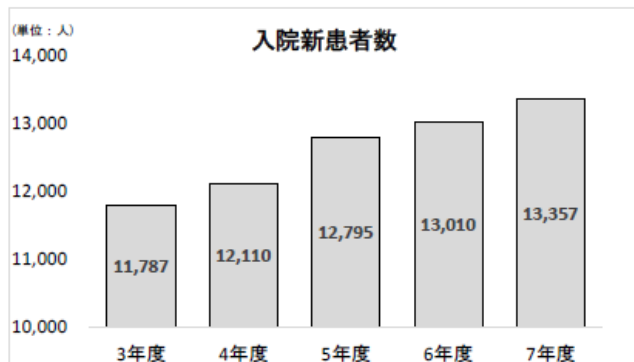
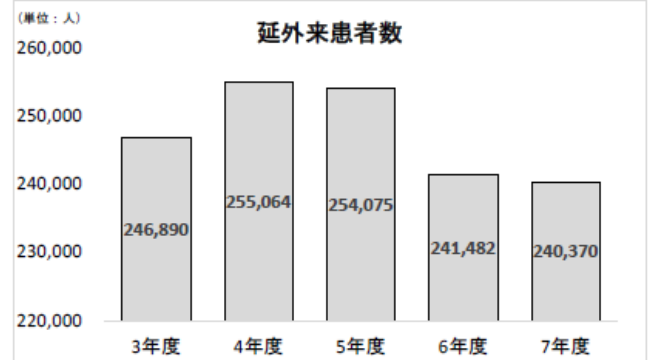
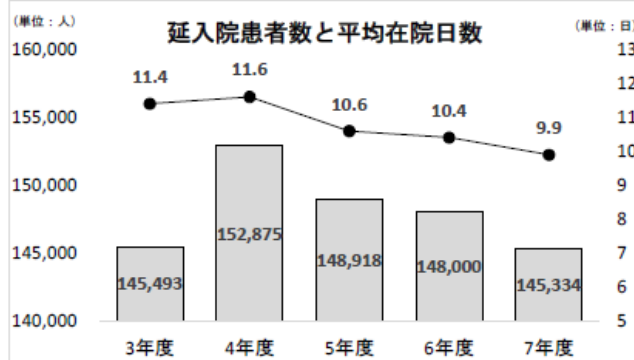
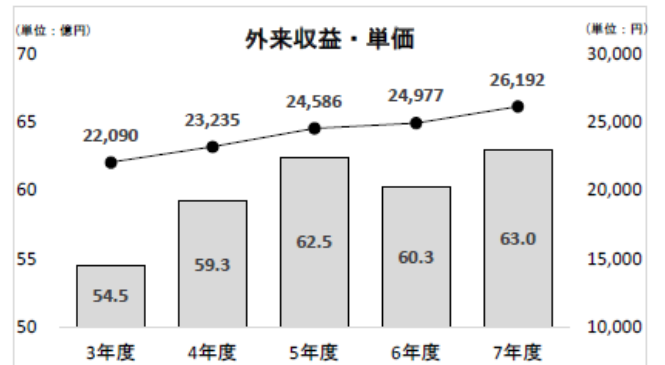
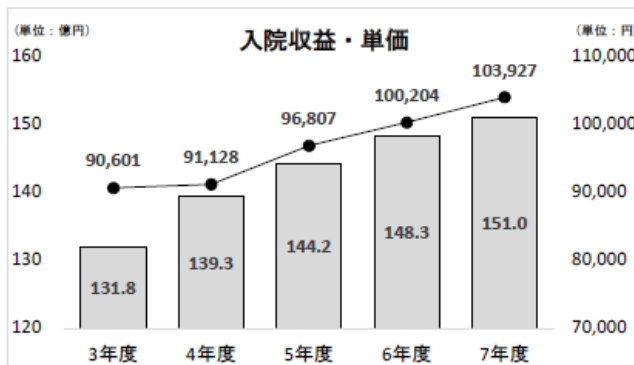


(2) 主な診療実績

入院関連	令和7年度実績	令和6年度実績	増 減 値	増 減 率
診療単価	103,927 円	100,204 円	3,723 円	3.7%
新患者数	13,357 人	13,010 人	347 人	2.7%
平均在院日数	9.9 日	10.4 日	△0.5 日	△4.8%
延患者数	145,334 人	148,000 人	△2,666 人	△1.8%
一日平均患者数	398 人	405 人	△7 人	△1.8%
病床稼働率	78.7%	80.1%	△1.4 P	

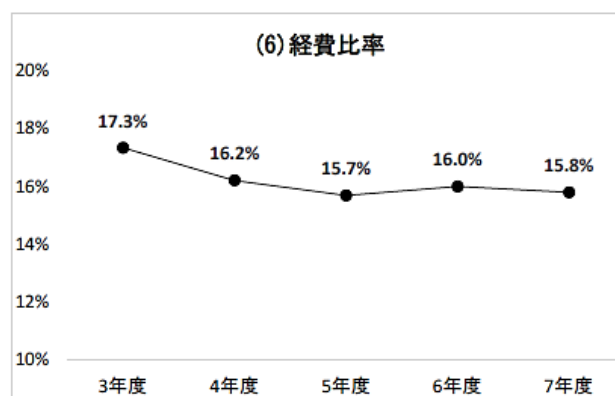
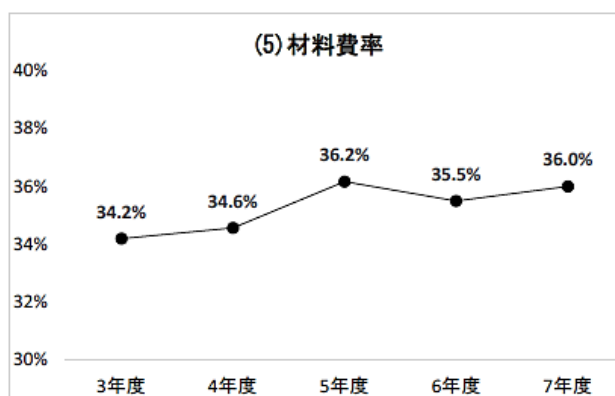
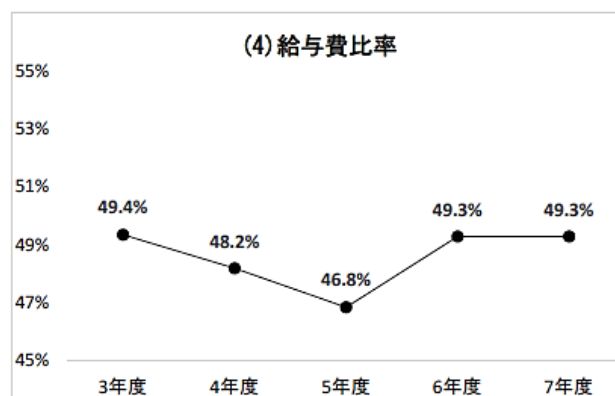
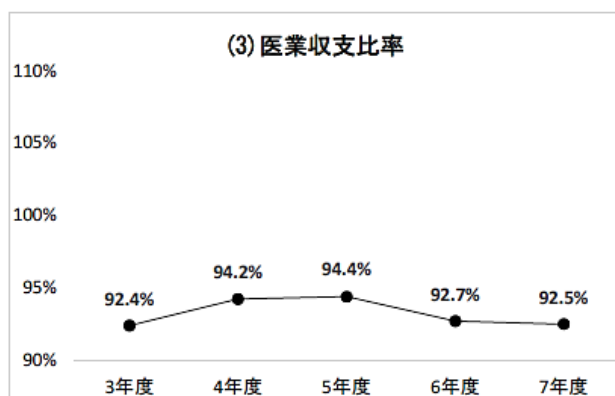
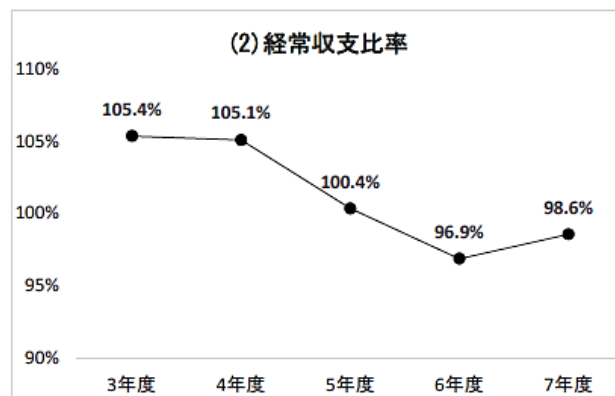
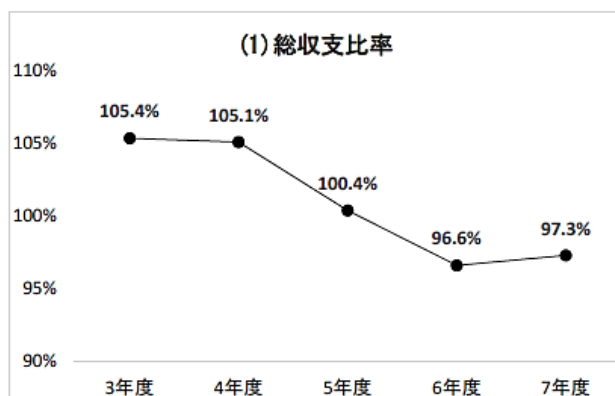
外来関連	令和7年度実績	令和6年度実績	増 減 値	増 減 率
診療単価	26,192 円	24,977 円	1,215 円	4.9%
新患者数	22,148 人	21,981 人	167 人	0.8%
紹介患者数	14,484 人	14,318 人	166 人	1.2%
延患者数	240,370 人	241,482 人	△1,112 人	△0.5%
一日平均患者数	993 人	994 人	△1 人	△0.1%

稼働状況等	令和7年度実績	令和6年度実績	増 減 値	増 減 率
手術件数	6,184 件	6,072 件	112 件	1.8%
紹介率	88.7%	91.8%	△3.1 P	
逆紹介率	162.2%	166.1%	△3.9 P	



(3) 経営指標

区 分	令和 7 年度実績	令和 6 年度実績	増 減
(1) 総収支比率	97.3%	96.6%	0.7 P
(2) 経常収支比率	98.6%	96.9%	1.7 P
(3) 医業収支比率	92.5%	92.7%	△0.2 P
(4) 給与費比率	49.3%	49.3%	0.0 P
(5) 材料費比率	36.0%	35.5%	0.5 P
(6) 経費比率	15.8%	16.0%	△0.2 P



【経営指標の計算式】

- (1) 総収支比率……総収益/総費用
- (2) 経常収支比率……(営業収益+営業外収益)/(営業費用+営業外費用)
- (3) 医業収支比率……医業収益/医業費用
- (4) 給与費比率……給与費(医業費用)/医業収益
- (5) 材料費比率……材料費(医業費用)/医業収益
- (6) 経費比率……経費(医業費用)/医業収益

(4) 貸借対照表

決算日（3月31日時点）におけるすべての資産（資金の運用形態）、負債及び純資産（資金の調達方法）を記載した法人の財政状況を明らかにしたものです。

（単位：百万円）

項 目	令和7年度	令和6年度	増減額	主な増減理由
資産の部	20,868	21,959	△ 1,091	
固定資産	11,017	12,109	△ 1,092	
土地	2,688	3,001	△ 313	医師住宅の返還による
建物	4,571	4,714	△ 142	西館熱源更新工事などによる増加 +190百万円 減価償却の進捗などによる減少 △336百万円
構築物	5	9	△ 3	
器械備品	2,117	2,369	△ 252	医療機器の取得、更新等による増加 +537百万円 減価償却の進捗などによる減少 △789百万円
車両	8	6	2	DMAT車両の取得による増加 +6百万円 減価償却の進捗による減少 △4百万円
リース資産	398	735	△ 336	電子カルテ等の減価償却の進捗による
建設仮勘定	0	3	△ 3	西館熱源更新工事の完了による
無形固定資産	9	18	△ 10	減価償却の進捗による
投資有価証券	1,000	1,000	0	
長期貸付金	219	254	△ 35	看護師修学資金の返済の進捗による
破産更生債権等	43	43	0	
貸倒引当金（破産更生債権等）	△ 43	△ 43	△ 0	
その他投資	0	0	0	
流動資産	9,851	9,851	1	
現金及び預金	5,230	5,566	△ 336	※キャッシュ・フロー計算書参照
未収金	4,131	3,780	351	未収補助金の増加による
貸倒引当金	△ 29	△ 28	△ 1	
医薬品	334	348	△ 14	
診療材料	163	163	0	
前払金	17	17	0	
その他流動資産	5	5	△ 0	※保険前払分、有価証券利息未収分等
負債の部	13,450	13,852	△ 402	
固定負債	9,689	10,186	△ 497	
資産見返負債	232	298	△ 65	補助金等財源取得資産の償却の進捗による
長期寄附金債務	200	0	200	医療機器等の購入財源としたことによる
長期借入金	600	600	0	
移行前地方債償還債務	3,576	3,875	△ 300	既往債の償還による
引当金	5,011	4,955	56	退職給付引当金の増加による
リース債務	70	458	△ 387	電子カルテ・ネットワーク機器償還による
流動負債	3,761	3,666	94	
一年以内返済予定長期借入金	300	300	0	
一年以内返済予定移行前地方債償還債務	300	293	6	
未払金	1,897	1,873	24	建設改良費、経費等の支払いによる
未払費用	109	100	9	
引当金	583	544	39	給与改定に伴う賞与引当金の増加による
一年以内支払予定リース債務	387	381	7	
その他流動負債	184	175	9	※預り所税、預り納付金
純資産の部	7,418	8,107	△ 689	
資本金	4,919	4,919	0	
利益剰余金	2,499	3,188	△ 689	
前期中期目標期間繰越積立金	3,188	3,938	△ 750	令和6年度当期純損失の処理による
目的積立金	0	93	△ 93	令和6年度当期純損失の処理による
当期末処分利益（損失）	△ 689	△ 843	155	
うち当期純利益（損失）	△ 689	△ 843	155	

（注）表中の数値は各項目ごと百万円未満を四捨五入しているため、合計及び増減額が一致しない場合があります。

(5) キャッシュ・フロー計算書

一会計期間（４月１日から翌年３月３１日までの１年間）における業務活動、投資活動及び財務活動の区分に分けて資金の流れを明らかにしたもので、現金と普通預金の動きを示しています。

（単位：百万円）

項 目	令和 7 年度	令和 6 年度	増減額	主な増減理由
業務活動によるキャッシュ・フロー	1,109	850	259	
材料の購入による支出	△ 8,582	△ 8,319	△ 263	薬品・診療材料支払額の増加による
人件費支出	△ 11,140	△ 10,701	△ 439	給与等支払額の増加による
その他の業務活動による支出	△ 3,712	△ 3,800	88	経費等支払額の増加による
医業収入	21,573	21,217	356	入院・外来収益の増加による
運営費負担金収入	2,170	2,130	40	第 3 期中期計画どおり
補助金等収入	585	294	291	国補助金等の増加による
寄附金収入	214	0	213	高額寄附及びクラウドファンディングによる
その他の業務活動による収入	88	136	△ 48	
利息及び配当金の受取額	16	6	10	
利息の支払額	△ 104	△ 114	10	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 739	△ 1,954	1,215	
定期預金の戻入による収入	0	0	0	
定期預金の預入による支出	0	0	0	
投資その他の資産の取得による支出	0	△ 500	500	
有形固定資産の取得による支出	△ 719	△ 1,427	708	施設改修及び医療機器等の購入の減少による
無形固定資産の取得による支出	△ 2	△ 2	△ 0	
貸付金の回収による収入	38	31	7	看護師修学資金返済分
貸付けによる支出	△ 65	△ 73	8	看護師修学資金貸付分
預かり保証金受入れによる収入	0	18	△ 18	
預かり保証金払出しによる支出	0	△ 4	4	
補助金等収入	9	3	6	医療機器購入に係る補助金の増加による
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 706	△ 661	△ 45	
長期借入れによる収入	300	300	0	
長期借入金の返済による支出	△ 300	△ 300	0	
移行前地方債償還債務の償還による支出	△ 293	△ 287	△ 6	
リース債務の返済による支出	△ 412	△ 374	△ 38	電子カルテ・ネットワーク機器償還による
資金増加額	△ 336	△ 1,765	1,429	
資金期首残高	5,566	7,331	△ 1,765	
資金期末残高	5,230	5,566	△ 336	

（注 1）表中の数値は各項目ごと百万円未満を四捨五入しているため、合計及び増減額が一致しない場合があります。

(6) 純資産変動計算書

【地方独立行政法人静岡市立静岡病院】

	Ⅰ 資本金		Ⅱ 利益剰余金					純資産 合計
	地方公共団体 出資金	資本金 合計	前期中期目標期間 繰越積立金	病院施設の整備・修繕、 医療機器の購入、人材育 成及び能力開発の充実等 に充てる目的積立金	当期末処分利益（又は当期末処分損失）	うち当期総利益 (当期総損失)	利益剰余金 合計	
当期首残高	4,919,483,623	4,919,483,623	3,937,917,605	93,119,159	△ 843,449,848	-	3,187,586,916	8,107,070,539
当期変動額								
Ⅰ 資本金の当期変動額								
Ⅱ 利益剰余金の当期変動額（純額）								
（１）利益の処分又は損失の処理								
損失処理による取崩			△ 750,330,689	△ 93,119,159	843,449,848	-	-	-
（２）その他								
当期純損失					△ 688,623,608	△ 688,623,608	△ 688,623,608	△ 688,623,608
当期変動額合計	-	-	△ 750,330,689	△ 93,119,159	154,826,240	△ 688,623,608	△ 688,623,608	△ 688,623,608
当期末残高	4,919,483,623	4,919,483,623	3,187,586,916	-	△ 688,623,608	2,498,963,308	7,418,446,931	

(単位：円)

(7) 行政コスト計算書

【地方独立行政法人静岡市立静岡病院】

(単位：円)

科 目	金 額		
I 損益計算上の費用			
医業費用	23,498,500,029		
一般管理費	424,192,912		
営業外費用	1,251,293,693		
臨時損失	345,630,826		
損益計算書上の費用合計		25,519,617,460	
II 行政コスト			25,519,617,460